



咲耶会の皆様へ

幸せにしたい人に出会う。

学士会館・良縁倶楽部

大切な出会い。そして堅実な結婚をあなたに……

学士会の正会員・準会員(咲耶会・国立七大学出身者を中心)とその家族の婚活を支援する倶楽部です。

学士会館・良縁倶楽部が 選ばれる4つの理由

※国立七大学：北海道大学・東北大学
東京大学・名古屋大学
京都大学・大阪大学
九州大学

1
学士会会員と家族、
咲耶会・国立七大学※
出身者を中心とした
入会基準を設けた
会員制結婚紹介
サービス

2
会員への
トータルライフ
サポート

3
専任
コーディネーターによる
手作りのマッチング
プロデュース

4
プライバシー保護

サービス

- 団体紹介サービス
婚活イベントの開催(首都圏にて開催、参加料有料)
- 倶楽部会員の相互紹介
- 個別紹介サービス(提携先によるサービス)
- お見合用写真のメイク&撮影
- 成婚後のご相談
- 学士会館メールマガジン会員にご登録

入会条件

学士会の正会員・準会員本人およびその家族とします。また、次の条件を満たす方とします。

- [独身であり、結婚する意志を持っていること]
男性：25歳～ 社会的に確かな職業に就いており真面目にご結婚をお考えの独身の方
女性：20歳～ 真面目にご結婚をお考えの独身の方
- [当倶楽部の趣旨に賛同し、当倶楽部が定める規則を厳守すること]

お問合せ/営業について

メールアドレス：ryoan@gakushikaikan.co.jp 営業時間：11:00～19:00
電話番号：03-3292-5941 定休日：水曜日・木曜日

学士会館・良縁倶楽部

<https://www.gakushikaikan.co.jp/ryoan/>
〒101-8459 東京都千代田区神田錦町 3-28

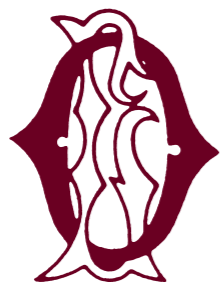


あけぼの(第4回卒業生アルバム)

大阪外国語大学創立50周年記念絵葉書旧大阪外国語学校校舎(1972)

大阪外国語大学創立50周年記念絵葉書旧大阪外国語学校講堂(1972)

戦前の上本町学舎
中国語第10回卒業アルバム「鵬翼」1934年



[表紙のことは]

第一次世界大戦が終了しようやく平和が訪れた時代、大正デモクラシーの中で誕生したわが母校。その始まりは、海運業で財を成した林竹三郎の遺言により、その妻蝶子が大阪に国際人養成の外国語学校設立のため、当時巨額であった100万円を寄付したことによる。

1921年12月9日、大阪大学外国語学部のルーツである「大阪外国語学校」が大阪市内上本町8丁目に設立された。鉄筋コンクリート3階建ての校舎本館、講堂などのある2階建ての校舎は、折り襟背広のハイカラな制服とともに、大阪市民を驚かせたという。

設立当時は、支那語部、蒙古語部、馬來語部、印度語部、英語部、仏語部、独語部、露語部、西語部の9語部。募集人員200名に対して志願者1,344名の狭き門であったという。

2年後、母校は創立100周年を迎える。当時の学舎から、母校の歴史に思いを馳せたい。

目次

2	会長新任のご挨拶(会長 大水 勇) ご挨拶(大阪大学理事・副学長 吉川秀樹)
3	ご挨拶(大阪大学外国語学部長 大内 一) 令和元年度 総会・懇親会のご案内
4	箕面新キャンパスと大阪外国語大学創立100周年記念事業
5-6	平成30年度 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 「司馬文学における人と城」
7	カタリナ・ライマン先生を探して
8	懐かしの恩師は今
9-10	[特集] 留学体験記
11-12	私のキャリアレポート
13-17	CAMPUS NEWS
18	菜の花「人工知能は外国語系大学の脅威となるか」
19-20	部活動の広場
21-25	咲耶会ニュース
25	平成30年度 決算報告・令和元年度 予算案
26-28	つどい
28-34	支部だより
35-39	短信
39	物故者/追悼文
42-44	年会費支払者・賛助金寄付者一覧
45	咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表
46	令和元年度 咲耶会役員名簿 個人情報取扱について 編集後記

会長新任のご挨拶



会長
大水 勇

私は、平成30年(2018年)10月20日の咲耶会総会で咲耶会会長に選出されました。今回は、ご承知のとおり少徳会長が病気になられたため退任されることになり、急遽副会長を務めていました私が咲耶会会長を引き継いだものです。

私は、大阪外国語大学中国語科を昭和42年に卒業(大C15)し、その後昭和51年11月に司法試験に合格し、昭和54年4月より現在まで弁護士をやっております。その間、平成15年度大阪弁護士会副会長をつとめました。現役の弁護士です。

ところで同窓会が活躍している世界を見ると平成の時代には、世界はグローバル化に向けて走っていましたが、令和の時代に入り、グローバル化に陰りが出ています。イギリスのEUからの離脱、或いはアメリカが推し進める自国中心主義或いは米中貿易戦争が今後どのようなようになるかは、予測もできません。このような事柄により、同窓会も大きく影響を受けることになるのではないかと考えています。

国内でも世代間の認識の違いが大きくなっています。咲耶会においても世代間で異なっています。こんな時代に同窓会である咲耶会は、どうあるべきでしょうか。私は、同窓会の原点に戻るべきであると考えています。咲耶会は、会員数2万人を超える同窓会です。世代を超え、男女の割合にも変化があります。しかし根本的には、大学で外国語を学んで卒業したという一点で結びついたボランティア団体です。各自の自発的意思に基づく自発的活動が基本です。会員各自の自発的活動が前提である同窓会であれば、「集まりは、楽しく、次回も参加しよう」と思える咲耶

会でご挨拶

会でご挨拶

会でご挨拶

会でご挨拶

会でご挨拶

会でご挨拶

会でご挨拶

学士会をご存じですか？

学士会は旧七帝大(北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大)の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 『學士會会報』が届きます。
- 講演会・イベントへ参加できます。
- 「学士会館」会員優待があります。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。
<http://www.gakushikai.or.jp/>

学士会案内が届く準会員(無料登録)制度もございます。

一般社団法人 学士会

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28
03-3292-5933 (平日9時~17時)



ご挨拶



大阪大学理事・副学長
吉川秀樹

記念すべき『咲耶』30号の発行にあたり、一言、ご挨拶させていただきます。病院運営、共創推進を担当しております理事・副学長の吉川秀樹でございます。私は、昭和54年に大阪大学医学部を卒業し、約40年間、整形外科医をしております。医学部・歯学部の両附属病院の運営と、大阪大学同窓会連合会の代表幹事をはじめとする各同窓会活動や未来基金の責任者をしております。

すでにご案内のとおり、大阪大学は、2021年に大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年を迎えます。その記念事業の募金実行委員長も拝命しており、昨年10月より、募金活動をスタートしております。その事業の一つとして、「中之島キャンパス再開発事業」を実施いたします。

大阪帝国大学発祥の地「中之島」に、2004年に開設した中之島センターを大規模改修・機能強化いたします。新たな中之島センターを中心に、市立美術館などと連携し、「中之島アゴラ構想」として産学共創、アート、社学共創のグローバル拠点の形成を目指すものです。

もう一つは、2021年の外国語学部移転に伴い、「箕面新キャンパス整備事業」を実施いたします。10階建の新キャンパスは、2023年度に開通する北大阪急行の新駅「箕面船場阪大前駅」とデッキでつながり、1階には「大阪外国語大学記念ホール」の開設を予定しています。その他、出版事業やシンポジウムなど、様々な記念イベントを企画しており、2021年5月1日の記念式典では、卒業生の皆様とともに盛大にお祝いを行いたいと考えております。現在、これらの記念事業を成功させるべく、全力で募金活動を行っておりますので、咲耶会の皆様にも、温かいご支援をお願いできれば幸いです。何卒よろしく願いいたします。



大阪大学外国語学部長
大内 一

咲耶会の皆様には、平素より外国語学部に対する温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

大阪外国語大学と大阪大学が統合して早くも丸12年になります。外国語学部の学生は、2年次以降、全学共通教育の場である豊中キャンパスを離れ、主たる勉学の場を箕面キャンパスに移動させるものの、他学部の学生と何の違和感もなく活発に交流し、押しも押されぬ阪大生として学生生活を謳歌しています。

外国語学部の教員については、2大学統合時には、他研究科やセンター組織に分散配属され、兼任教員として本学部の授業を行うという、いわゆる教員分離の先取り状態にありましたが、大学院改革の一環として文学研究科と言語文化研究科を統合する人文系大研究科構想が進む中、我々は本部の理解と協力を得て、学部専任教員の所属を言語文化研究科言語社会専攻及び日本語・日本文化専攻(=箕面部局)

に集約する考えを推し進め、今やほぼ完成の段階に至っています。その結果、現時点で上記2専攻所属の学部専任教員数は約100名に増加し、驚くべきことにその半数を女性が占めるに至りました。この事実は、大阪大学のダイバーシティ・マネジメントへの外国語学部の貢献度の大きさを示す一方で、本学部が新たな時代に向かって歩み始めるのを予感させるものでもあります。

大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年事業は、箕面キャンパス移転まで残すところ1年半となり、まさに佳境を迎えています。皆様方より一層のご協力をお願い申し上げます(周年記念事業については別稿をご覧ください)。

私事で恐縮ですが、私は本年9月末日をもって任期満了となり、外国語学部長の職を離れます。言語文化研究科筆頭副研究科長、言語社会研究科長、大阪大学教育研究評議員、外国語学部長と連続して10年6ヶ月の長期にわたり箕面部局の運営に携わった後、こうして大過なく任を終えることが出来ますのも、ひとえに皆様のご協力のお陰であると思っております。この機会をお借りして、皆様から心からお礼申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。



箕面新キャンパスイメージパース



図書館



教育研究施設(外国語学部)

箕面新キャンパスと大阪外国語大学創立100周年記念事業

2021年4月の新キャンパスの開校まで余すところ1年半となろうとしています。新キャンパスには、大阪外国語大学記念ホールを設けた外国語研究講義棟と学寮が大阪大学の敷地内に建設されるほか、箕面市が建設する図書館の中に大阪大学外国語学図書館が設けられ、現箕面キャンパスの大部分の機能が維持されます。さらに箕面市の生涯学習センターと文化ホールが隣接して建設され、文系クラブ・サークルの活動の場や語劇祭の会場として利用できるようになります。残念ながら開校と同時期に予定されていた北大阪急行の開通は、地盤工事等の関係で2年以上先延ばしになりましたが、それでも、千里中央駅から徒歩で15分強という立地によるアクセスの利便性は、現キャンパスと比較すれば格段に上がります。

移転前年の11月には、現箕面キャンパスの最後を飾るべく、現役学生、教職員、OB、OGに声をかけて盛大な「キャンパスさよなら祭」を計画しています。移転後の11月には、「大阪外国語大学創立100周年記念式典」を挙るとともに、「記念講演会・シンポジウム」、「記念祝賀会」、大阪外国語大学時代からの伝統行事である「語劇祭」を開催する予定です。式典に合わせて、『大阪外国語大学100年史(写真で見る外国語学部の歩み)』を発行します。

現在、大阪大学外国語学部は、「大阪外国語大学記念ホール」の設置・設備充実費に充てるべく、大阪大学未来基金のなかに「箕面新キャンパス整備事業」のプロジェクト名でご寄付の受け皿を設け、皆様方にご理解とご協力をお願いしているところです。ご寄付の目標額は2億円を設定しておりますが、まだまだ到達しておりません。今年度内、遅くとも来年度前期までに目標をクリアできるよう努力する所存でございますので、皆様方にはなお一層のご協力をお願い申し上げます。また、箕面市には、同市の「ふるさと納税」のなかに「箕面新キャンパス周辺整備」のための寄付枠を設けていただけることになりました。返礼品は箕面ビールやMISOKA歯ブラシなどの箕面特産品です。箕面市ふるさと納税もご活用いただければ幸いです。

私たち外国語学部一同は、キャンパス移転と創立100周年記念事業を是非とも成功させたいと思っております。そのための努力は惜しみません。しかし、微力な私たちだけでは限界がございます。繰り返しになりますが、皆様方には是非とも今まで以上のご理解とご協力を賜り、キャンパス移転と創立100周年記念事業を成功に導いて下さいますようお願い申し上げます。

大阪大学外国語学部長 大内 一

令和元年度 総会・懇親会のご案内

日時: 令和元年11月2日(土)午後1時30分～午後6時

※大阪大学「まちかね祭」の開催中です。

会場: 大阪大学豊中キャンパス内 大阪学生会館
大阪府豊中市待兼山町1-13 TEL 06-6850-5977

豊中キャンパスへのアクセスマップ



大阪大学ウェブサイトより

豊中キャンパスへのアクセス

- 電車: 阪急電車宝塚線「石橋」駅(特急・急行停車)下車 東へ徒歩15分(坂道です)
- モノレール: 大阪モノレール「柴原」駅下車 徒歩約15分(平坦です)
- ※自動車入構可能・キャンパス構内に駐車可能です(正門からお入りください)(懇親会でお酒を飲まれる方は、運転されないようお願いいたします)

学生会館へのアクセスマップ



大阪大学ウェブサイトより

<第I部>

- 咲耶会総会: 午後1時30分～午後2時30分 於2階講堂
- 「咲耶出版大賞」授与式: 午後2時30分～午後3時 於2階講堂
- 講演会: 午後3時～午後4時 於2階講堂
講師: 是永 駿 先生(大C14/中国語学科1966年卒業) 元大阪外国語大学学長/大阪外国語大学名誉教授 元立命館アジア太平洋大学学長 令和元年春の叙勲で、教育と研究における長年の功により、「瑞宝中綬章」を受勲 演題: 「私の大学像 —“外大DNA”を継ぐもの—」
- 休憩(会場移動): 午後4時～午後4時20分



<第II部>

- 懇親会: 午後4時20分～午後6時
懇親会会費: 5,000円(当日会場にていただきます)
※新卒業生会員(平成31年3月/令和元年9月卒業)・学生会員は無料です。未加入の学生については、会費として、1,000円をいただきます。
※卒業後50年の会員には、記念品をプレゼントします。多数のご出席をお待ちしています。
- 参加ご希望の方は、同封のハガキにてお申し込みください。

<お問い合わせ>

咲耶会事務局
TEL & FAX : 072-728-2327
E-mail : sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

※「箕面新キャンパス整備事業」にご寄付いただいた方のご芳名は、大阪大学未来基金のWEB芳名帳で公開されています。
[大阪大学未来基金]でご検索ください。

平成30年度 大阪大学 司馬遼太郎記念学術講演会



主催：大阪大学
協力：産経新聞社
後援：司馬遼太郎記念財団
協賛：咲耶会（大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会）

テーマ： 「司馬文学における人と城」

【第1部】 朗読 司馬作品から ビブリオバトル

大阪大学の学生による、司馬作品(小説)の
紹介と質疑応答

【第2部】 講演 「司馬文学とお城」

奈良大学教授・城郭考古学者 千田嘉博

総合司会：NHK 金沢放送局キャスター 小川真由

平成30年11月8日、恒例の司馬遼太郎記念学術講演会が大阪大学豊中キャンパス旧イ号館講堂で行われた。大阪大学主催、司馬遼太郎記念財団後援、大阪大学外国語学部・大



阪外国語大学同窓会咲耶会協賛、産経新聞社協力による開催。テーマは「司馬文学における人と城」で、開会にあたって司馬のエッセイ「大阪城公園駅」が朗読された。

最初に阪大生による書評合戦ビブリオバトルが行われた。各自が幕末・維新にかかわる司馬作品一冊を五分間のスピーチで紹介し、会場の聴衆による投票(どの本が読みたくなったか)で最多票を獲得すれば優勝(チャンプ本)というイベントである。

法学部2年の金井明日香さんは短編集『新選組血風録』を取り上げ、個性豊かな人物たちの対立と友情、なかでも「沖田総司の恋」に描かれた武士の私生活や恋愛事情が描かれている面白さを分かりやすく語った。

法学部2年の北田拓生さんも同じく『新選組血風録』を取り上げたが、こちらは「三条碓乱刃」で土方らが井上源三郎という無名の弱い人物を幹部として重用した点に注目、非常に興味深い組織論を展開した。

外国語学部4年の中山敦貴さんは長編『花神』を取り上げ、主人公、村田蔵六(大村益次郎)が適塾でオランダ語や医学を学びつつエンジニアとしてのキャリアを積んでいった過程に、就活にも通じる日本人としての生き方を読み解いた。

文学部2年の今坂朋彦さんは長編『最後の将軍』を取り上げ、徳川慶喜の奇妙なほど厚い人望がその柔らかい語り口にあった点を強調、今も昔も人の上に立つ者の資質はまずもって万人から信頼される温厚さなのだと言った。



外国語学部3年の渡辺和之さんは長編『燃えよ剣』を取り上げ、土方に感情移入した自らの体験から、読書とは主人公と同じ時間を重ねることであり、文学は教養ではなく生きた体験なのだと言った。

休憩をはさみ、招待講演者で奈良大学教授の千田嘉博氏が登壇、「司馬文学とお城」と題する講演を行った。千田氏は2016年のNHK大河ドラマ『真田丸』で城郭考証を務め、同じNHK『プラタモリ』で城を扱う回に出演するなど、様々な領域で幅広く活躍する城郭考古学者である。



千田嘉博氏

千田氏は『燃えよ剣』の舞台となった砦や城に注目、なかでも北海道の五稜郭と函館北方の山地につくられた二股陣地を様々な角度から分かりやすく解説した。

土方歳三の戊辰戦争における最大の勝利ともいえるのが二股陣地の戦いである。土方が天然の隘路を利用して物量で勝る官軍を退けたこの砦について、司馬は「二股での攻防戦では、

歳三はほとんど芸術的昂奮でこの戦を創造した」と述べている。

いっぽう、その後のいわゆる箱館戦争では、五稜郭を中心に、海上艦砲射撃に対する防衛の拠点である弁天台場、陸側からの侵攻を阻止する北の二つの砦が土方軍の拠点となる。しかし、五稜郭という江戸末期に建てられた西洋風の砦が、実はすでに大型艦砲戦に対応できない時代遅れのものになっていたこと、五稜郭や函館市を囲む防衛ラインに隙があり過ぎたことなどから、旧幕府軍はあっけなく崩壊し、土方も戦死してしまう。

では五稜郭がモデルとした西洋風の城郭とは、どのように発展してきたのだろうか。千田氏はここから中世以降の主にドイツなどヨーロッパにおける城郭建築史に話を移す。

ヨーロッパの中世城郭は11世紀以降石造化がすすみ、12世紀には高い塔がつくられるようになった。15世紀になると高くそびえた圧倒的な防御壁「シールドマウワー」で守りを固めるようになった。この頃には大砲技術が発達し、攻撃目標となる高い塔や壁は時代遅れになっていく。城郭は、大砲を置く稜堡をいくつも死角のない形でつなぐという、稜堡式城郭が主流になっていく。稜堡式の城郭は大型化がすすみ、より強力な銃器や大砲からの防衛を目的としたカスメートと呼ばれる被弾に強い防護壁を備えたものなど、時代に合わせて様々なスタイルをとるようになってゆく。

五稜郭とは、こうしたヨーロッパ流の稜堡式城郭と日本古来の城郭スタイルとが混じりあった、非常にユニークな城郭であったわけだが、艦砲射撃戦という新時代の戦争にあっては砦として用を足さなくなっていたこと、また沿岸台場などこの本丸を防衛する函館市周辺のラインに穴があり過ぎたため、その戦闘機能のわずかですら果たせないまま敗れ去ることになったのだ。

城郭考古学という耳慣れない学問に関する話ではあったが、写真や図版を用いた千田氏の語り口はユーモラスかつ明快で、城というテーマから新たな世界をいくつも見せてもらえる貴重な講演であった。

この後、前半に行われたビブリオバトルの投票が行われ、結果、中山敦貴さんの『花神』がチャンプ本に、今坂朋彦さんの『最後の将軍』が準チャンプ本に選ばれた。



左から西尾総長、準チャンプ本紹介者 今坂朋彦さん、チャンプ本紹介者 中山敦貴さん、大水会長

今年会場を梅田から豊中キャンパスに移し、また平日夕刻からの開催となったが、それでも会場は阪大関係者、大阪外大OB、司馬文学ファン、あるいはビブリオバトルの応援に駆けつけた阪大生などで満員となった。

(文責：松本健二) (写真提供：大阪大学共創推進部社会学共創課)

令和元年度 大阪大学 司馬遼太郎 記念学術講演会のお知らせ

今年度の大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会は、主催：大阪大学、後援：司馬遼太郎記念財団、協力：産経新聞社、協賛：咲耶会で、10月25日(金曜日)の17:30より、大阪大学豊中キャンパス「大阪大学会館」で開催されます。

大阪大学生による、司馬作品のビブリオバトル(書評合戦)「戦国の侍」と、作家 安部龍太郎氏による講演を予定しています。詳細は、大阪大学ホームページ、咲耶会ホームページをご覧ください。

カタリナ・ライマン先生を探して

脇坂洋子 (大 D27・院後期言語 9)

昭和 39 年から 56 年までの間にドイツ語科に在籍した学生であれば、ライマン先生のドイツ語会話の授業を受けた記憶があることだろう。日本語での質問も許されない厳格な授業は、外大に入学して右も左もわからない新入生の身で、異文化の洗礼の如き衝撃と感じた方もあったのではないだろうか。

ライマン先生はご自分のことを語るのを好まれなかったので、我々の知る先生の像は、「厳しい」「宿題をたくさん出す」といったような小さな断片ばかりであったが、本当は一体どのような方だったのだろうか。

私達の知らないライマン先生の横顔を知りたくて、咲耶出版大賞の選考委員として知り合った石野さん(大 D22)と私脇坂(大 D27)は、ライマン先生に所縁ある方々を尋ねることにした。まず、先生がカトリック教徒としての活動の拠点とされていた夙川カトリック教会を尋ねた。先生は、修道女としてではなく在野の信徒として活動しておられ、最初は教会敷地内の古い日本家屋に住まいされていたが、道路拡張工事の都合で大谷町に転居された。このお住まいで、ドイツのお料理やお菓子のおもてなしを受けた人も少なくないだろう。

先生は、来日されてほどなく賢明女子学院に教授として着任されたと聞き、我々は姫路へ向かった。そこで、先生のプロフィールを伺うことができた。

1907 年に、旧ドイツ領 Breslau (現ポーランド Wroclaw)にて誕生。1932 年プレスラウ大学文学部を卒業。戦争末期、ソ連兵が機関銃を突き付ける中を妹一家と共に脱出されたという。

戦前と戦後に、アメリカの大学で学んだ。この時に出会ったカトリックの信徒使徒職としての活動に共鳴する。

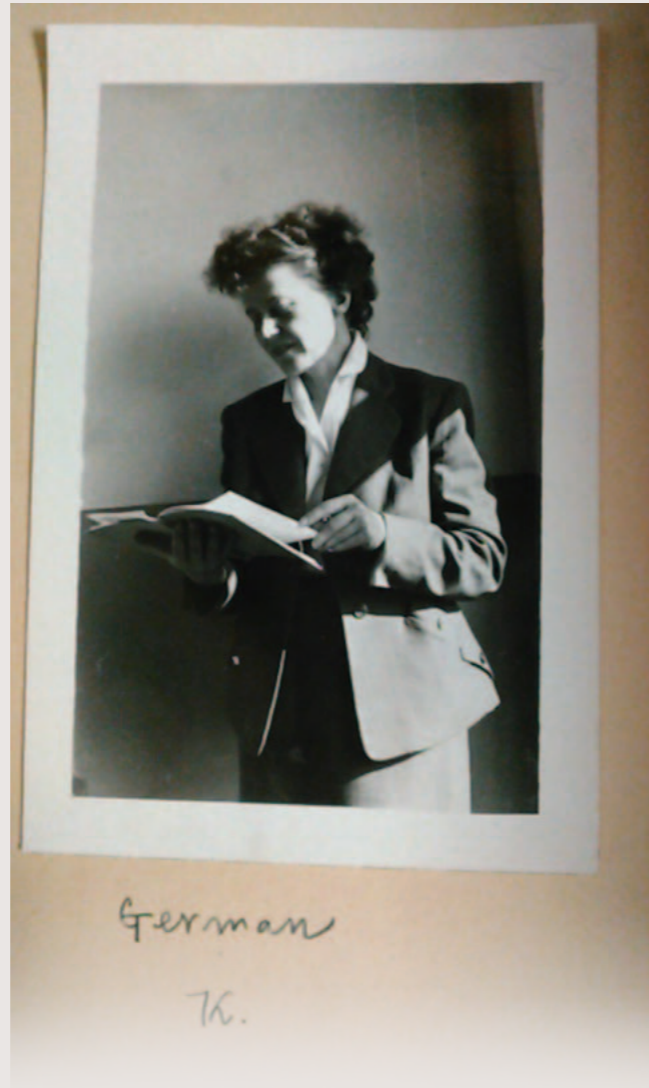
1953 年に姫路カトリック教会のご縁で来日。1957 年から賢明女子学院短期大学で、英米文学史、英国史、米国史を教える。当時の研究紀要に、比較言語学的見地から見たドイツ語教授法について先生が書かれた論文が残っている。

1964 年から 1981 年まで大阪外国語大学で各員教授としてドイツ語会話の授業を担当。



小豆島にて語科合宿：自転車 ライマン先生、村田先生、布施先生

ライマン先生 1959 賢明女子学院短大卒業アルバム



大阪市立大学や英知大学などでも教鞭をとる。英知大学卒業生の方のお話では、日本語で教科教育法の授業などをされていたという。その後も、朝日カルチャーセンターはじめ様々な場でドイツ語講師を務めていたが、1994 年に神戸の病院に入院され、転院した姫路の病院で、教育と神への奉仕に捧げた人生を 86 歳で終えられた。先生は、亡くなる直前まで周囲の人々のことを気遣い、付き添っていたシスターのその日の予定まで気にしておられたという。

姪ごさんの親戚の方によると、先生は生前に、遺言書を領事館に託し、自らのお墓の手配をし、お世話になった方々へ贈るお礼の品も準備されていたという。見事な生涯だった。

40 数年前のクリスマスイブに、先生は、「人生とは、単に『外から与えられたもの』ではなく、自ら主体的に取り組んでいくべき『課題』です」とおっしゃった。私は、辛いことがあった時には、いつもこの言葉を思い出していた。先生の「課題」がどのようなものであったのか、私にはわからない。でも、先生の人生を追体験し、この言葉は、私の胸の中で今も暖かな空気に包まれてずっと生きている。

懐かしの恩師は今

チャレンジ・感動、そして笑顔



松下唯夫

大阪外国語大学名誉教授 (比較文化講座)

写真は、今年6月沢登りとイワナ釣りに初めてチャレンジしたときのスナップです。4時間かけて滝と岩場を登り、イワナが潜む滝つぼに竿を入れて釣り上げる。魚は焼いて食する。きれいな水、濃い緑の森、その隙間から見える青い空、すべてに感動。イワナを食べるとき、15才年下のベテランガイドの笑顔。現役の頃を思い出した。スポーツの楽しさを伝える教科、43年間若い人から元気をもらっていたんだ！感謝しなければ…。

80才近くになると、仲間の話題はアンチエイジングである。2000年代に入り、旅と食の番組が多くなった。いくら制作費が安くすむとはいえ、少し「うるさい」くらいである。役に立つ情報もあるので「しつこい」「うるさい」といったら、失礼になるかもしれない。

すでに今から300年前、貝原益軒の「養生訓」に記されていることが多い。益軒と23才年下の妻、東軒が健康法を探し求めて、実践したことが、最近の研究で立証されている。夫婦仲がよく、いつも二人で旅行に出かけ、楽しかったこと、学んだこと等をメモ、帰ったら思いを書き足す。後日、振り返って読み、楽しむ。(認知症予防になるそうである)

私の近況は、スキーは現役で続けている。シーズンオフは、季節に追われて果樹、花、野菜づくりとゴルフに励んでいます。毎日笑顔で暮したい。そう願っています。

「外語」「外大」そして「阪大」の「ベトナム語」よ 永遠なれ!



2017年10月20日 富田70歳誕生日。古希の祝いをベトナムの世界遺産ハロン湾で縁りの人々が集まってやってくれました。赤いアオザイは還暦と間違っているのです。

富田健次

元大阪外国語大学教授 (ベトナム語)

お声を掛けていただいた「懐かしの恩師」像にはほど遠く、語科現役学生はじめ一部の卒業生達とはほぼ毎週顔を突き合わせる「生々しい」生活が依然として続いております。

2013年3月にB棟6階の研究室を後進に譲り渡しましたが、無理を言って同じ棟の3階プロジェクトルームの一部屋を占拠。学生、院生、留学生はおろか、時折り訪ねて来る卒業生との接触も継続しております。

1977年10月、あの懐かしの上八学舎で、憧れのタイ語科名物教授「大富田」の招きで名誉ある「小富田」の称号を得て教職活動を始めて以来35年半。途中、79年秋の眞面への移転、更には「大富田」を亡くした後も「小富田」のまま、教えられた「外大教員」としての誇りを失くさず、2007年阪大との統合後も飽くまで「外大教員」としての矜持の保持に努め、退職時「阪大名誉教授」を肩に載せることを肯んじ得ず、「元大阪外大教授」を、笑われながらも頑固に貫き続けております。

私こと、卒業は「東外」で、本邦初の「ベトナム語劇」を世に問うた人間として、「外語」の中核は「語劇」であると念じ、「語劇祭」こそ、実演の現役生と語科の同窓生、いやその言語に関わる内外のあらゆる人が一堂に会する、年に一度の「大祭」と心得て、今でも執着を続けております。

しかしこれもキャンパス移転などを控え、そろそろ大団円を迎えつつあります。しかしベトナム焼肉のノロシは再び必ず上がるものと信じております。

私が見た「タジキスタン」



松田実樹

(ペルシア語専攻4年)

2014年大阪大学入学。4年生からは2年間大学を休学し、2017年10月～2018年3月、イラン・テヘランの語学学校に留学。2018年10月～2019年2月、JICAタジキスタン事務所にてインターン。箕面キャンパスの思い出は寮友との深夜徘徊。



「ロシアには夢があるんだ」。タジキスタンの首都ドゥシャンベで日本語を学んでいるタジク人の友人は、私にこう語りかけた。「タジキスタン」という国についてどんなイメージを思い浮かべるだろうか。中央アジア、旧ソ連圏…。ペルシア語専攻出身者なら、イスラム圏の国で、公用語がペルシア語系統のタジク語ということくらいは知っているのではないか。この国は中央アジアの最貧国として知られ、多くのタジク人がロシアに出稼ぎに行っている。若者たちはロシアで夢を掴もうとしているのだ。

大阪外大OBであり、現在JICAタジキスタン事務所で勤務している佐藤氏に声を掛けていただき、タジキスタンでインターンをするようになった。今回は、4ヶ月のタジキスタン生活を通して経験した事について書きたい。

私は休学1年目にイランで語学留学をしていた。タジキスタンでもペルシア語が通じると聞いていた私は、ペルシア語を使ってタジク人とたくさん喋ろうと思っていた。しかし、その想いはタジキスタンへ来てから打ち砕かれることになる。タジク語が思うように聞き取れない。そして、私のペルシア語も通じない。タジク語は、アフガニスタンの公用語ダリー語を思わせるような猛々しい響きを持ち、私がイランのテヘランで聞いていた、滑らかなペルシア語の響きとは全く異なるのだ。また、タジク語は中世ペルシア語と分類される所以、イランではもう使われていないような単語が使用されていたり、ウズベク語やロシア語からの借用語も多い。そのため、タジク語を習得するには思ったより時間がかかった。



両国の違いは言語だけではない。イランでは、飲酒をすることや女性が外で踊ることが禁じられている。そのため、みな家の中でひっそりとお酒を飲んだり、ホームパーティーでダンスをしているのだが、タジキスタンではわけが違う。人々はウォッカを浴びるように飲み、結婚式や祝日のたびに、うるさい音楽に合わせて男女関係なくみな外で踊っているのだ。イランのように、女性がスカーフをかぶることも強制されていないし、大学ではイスラム的な格好をしてはいけないという規則まである。イランで経験した外国人への馴れ馴れしさも、ここではあまり感じなかった。もちろん宗派の違いや政治的背景もあるのだが、近い言葉を話す国同士でも、こんなにも違いがあるのかと驚くことの連続だった。そしてそれは、ウォッカをわんこそばのように注がされるタチの悪い飲み会を経験して尚更思うようになった。(笑)

こうしてタジキスタンについて少しずつ理解を深めていったのだが、滞在中にこの国の全てを知ることはできなかった。タジキスタンは貧しい国であるが故に、中央アジアの中でも国民の幸福度が最も低いという統計が出ている。けれども、私がここで出会った人たちは、みんないつもニコニコしていた。家族がロシアにいて離れ離れになっても、常に電話で連絡を取り合っていてあまり寂しくなさそうだ。このような光景を目にした私は、その統計のデータが本当なのかも結局分からなかった。

タジキスタンから帰国して現在は就職活動中だが、私は将来「伝える仕事」に就きたいと考えている。いつかまた何かしらの形でタジキスタンに関わりたいし、この国のリアルな姿をもっと知って、日本人に伝えたいのだ。

タジキスタンがどんな未来を歩むかは私には分からない。しかし、タジク人の若者たちが、ロシアに行かずとも夢を持てたら良いと願うばかりである。



ベトナム『遊学』体験記



森本大聖

(ベトナム語専攻4年)

私は、2018年4月から2019年3月まで、ベトナムの経済都市ホーチミン市の中心にキャンパスを構える、ホーチミン市人文社会科学大学へ留学しました。

ベトナム語で留学のことを“Du học”と言います。ベトナム語の中には、漢字に対応する単語があり、上の“Du học”には、「遊学」という漢字があたります。その「遊学」という文字に従って、「よく遊び、よく学ぶ」という目標を立てて、ホーチミン市へと向かいました。

まず「学ぶ」という面について、私が留学したホーチミン市人文社会科学大学は、ベトナムで最初にベトナム語の専門教育機関を設立した大学で、そこで教鞭をとられている先生方の専門分野も、言語学、文学、人類学など多岐に渡ります。ベトナム言語語学に興味をもっていた私は、ご縁に恵まれ、ベトナム言語語学の著名な先生方から直接授業をしていただきました。授業は語学を中心に進んでいきましたが、文学や文化に触れる機会も多くありました。自分の知識不足や、先生方の話す方言など苦労は尽きませんでしたが、毎日新たな知識が増えていく喜びを感じました。



ホームステイ先の家族と食事

また、現地で共に学んだクラスメイトの留学生たちとの日々も印象に残っています。私のクラスには、台湾、韓国、カナダから来た留学生がおり、お互い目標は違っても、授業が始まれば切磋琢磨するという環境に身を置けたことは幸せでした。バックグラウンドや言語が異なる学生が、誰にとっても母語ではないベトナム語を使って意思疎通をする、また相手の国の文化についての見識



ホイアンのランタン

を深め、自分の国について紹介する、これも留学の醍醐味の一つだったと思います。

次に「遊ぶ」という面について、私がベトナムで夢中になったのは、ベトナム映画でした。「リスニング能力の助けになるかな」という軽い気持ちで観始めたのがきっかけで、何本か観ていくうちに、ベトナム映画の虜になっていきました。映画は、映像を通して、その国の文化や風習、現地の人々の価値観を強く映し出します。映画の中には、ベトナムにおいて「外国人」である私が、日常生活の中では知ることのできない新しい世界がありました。

また、学校の休みを利用して、ベトナムの北から南まで、各地へ旅行に行きました。こうした旅行は、留学先の授業や映画を通して学んだことの実践の場になりました。南北に長く伸びるベトナムは、土地によって気候風土のみならず、文化も大きく異なります。予備知識は頭に入っているつもりでしたが、新たな土地を訪れる度、驚きの連続で、強く記憶に残っています。

「よく遊び、よく学ぶ」、ベトナムへ渡る前に立てた目標を達成できた『遊学』生活でした。もちろん、留學生活の中で、壁にぶつかることもありましたが、そんな困難も忘れてしまうほど、楽しい出来事に満ち溢れていました。一年間ベトナムに留学したこの貴重な経験を胸に刻み、これからの人生が実り多きものになるよう努めていきたいと思っています。



留學先のクラスメイト達

敢えて終身雇用の逆を生きるー 己の生き様に悔いは無し

佐藤慶一 (大P43)

私は大阪外国語大学でペルシア語を学ぶことを第1志望として入学した。その理由は、第1次湾岸戦争の勃発だけでなく、ベルリンの壁崩壊に始まった東西冷戦の終結の結果として予想された旧ソ連の崩壊、元々歴史的にペルシア文化圏に含まれる旧ソ連中央アジア地域への関心など、歴史好きの無知な高校生らしいものだった。

その当時の日本は、80年代から続いていたバブル経済が最高潮に達し、まさか大学4年進級直前にバブルが崩壊し就職氷河期が始まるとは夢にも思っていなかった。その当時、某経済専門誌の記者が大学構内で学生にT洋経済という雑誌を見せて、「役に立つ国立大学ランクで大阪外大は最下位だ」と話していたことにショックを受けた。

大学のサイズが小さいことに輪をかけて、外大生の卒業生の多くは海外で働いているので国内企業経営者の間に広く知られているわけではなかった。阪大との統合後しか知らない人々には理解もできないだろうが、就職活動も当然容易ではなかった。

終身雇用の線路から飛び降りていた私にとって、人生の転機は英国留学だ。英国留学時に英国少林寺拳法連盟の水野師範に出会った縁で、青年海外協力隊員として活動していたウズベキスタンで現地日本大使館公使の高橋博史氏と出会ったことで人生が動いた。高橋氏は留学生時代にオックスフォード大学少林寺拳法部を水野師範の下で創部していた経緯から、私は両氏から何かと面倒を見てもらうことになった。特に、高橋氏が旧ソ連のアフガン侵攻前にカーブル大学でダリー語を学んでいた時、高橋氏の同期でパシュトゥー語を学んでいた江藤氏(故人)の指導教官は大阪外大でパシュトゥー語を教えて



いた勝藤猛先生であったこと、今でこそ有名であるが当時は無名の高橋氏を在アフガニスタン日本大使館へ専門調査員として強く外務省に推薦したのはペルシア語学科教官の岡崎正孝先生だったことから、その教え子として覚えてもらった。このような縁で、在タジキスタン日本大使館で委嘱員として働くことができ、念願の中央アジアのペルシア語圏で働くきっかけを掴んだ。

こんな縁に支えられていたわけであるが、自分が学生時代に抱いていた問題意識で、且つ自分が動いて変えられることは「擬似的な職務経験=インターンシップ経験」の機会を後輩のために作り出し、先輩と後輩のネットワークを仮想空間ではなく実際に実現することではないかと考えている。特に、日本企業の出遅れ感がある途上国における市場拡大という観点から、紛争地或いは紛争後の国での職務経験は今後ますます重要となっていくだろう。

これまで、タジキスタンでの日本語教師ボランティア、国連機関でのインターンなどの機会を後輩に提供してきた。現在勤務しているタジキスタン JICA 事務所では大阪大学との連携協定に基づいて覚書を締結し、ペルシア語専攻の学生2名をインターンとして招聘し活動してもらっている。

タジキスタンという国を知らない人も、国際協力に関心がなかった人も、ぜひ下に記載したURLのウェブページのインタビュー記事を楽しんでいただき、少しでも関心を持っていただければ幸いである。

URL <https://www.jica.go.jp/tajikistan/office/others/interview/index.html>

略歴

1995年、ペルシア語学科卒業。少林寺拳法部所属。在学中、中国新疆ウイグル自治区からパキスタンへ旅行。卒業後、地方公務員、ロータリー親善奨学生(英国)、青年海外協力隊(ウズベキスタン)、日本国大使館の委嘱員(タジキスタン)、国際NGO(アフガニスタン)、コンサルタント(シエラレオネ)、国連開発計画(タジキスタン)、JICA 専門嘱託(ウクライナ担当)などを経て、2018年より期限付職員としてJICA タジキスタン事務所に勤務し、安全対策とPR担当。予備自衛官で、技術士(農業)とPMP 資格を持ち、カラカルパク人の妻、長男長女と暮らす。



外大から医科大へ、人文科学と 自然科学の架橋となるべく

木本絹子 (大IP30)

ヒンディー語科卒業後に医師になろうと思ったのは、当時流行した「モラトリアム人間」のご多分に漏れず、医学部は6年、医系大学院4年ですから、10年は社会人になるのを遅らせられるというあまりほめられた理由ではありませんでした。

ヒンディー語科では、桑島教授のゼミで南アジア政治思想史を学びましたが、先生の講義の一言一句を聞き洩らすまいと学友と競ってノートをとったのを覚えています。その後、先生に声をかけていただき「アジアからのメッセージ」(嵯峨野書店)に共著者の一人として、社会医学的視点から「北タイにおけるエイズ流行と女性問題」というタイトルの文章を執筆しました。

タイ勤務の後、阪大大学院に在籍しながらロンドン大学衛生学熱帯医学大学院でエイズ・性感染症対策を学び、その経験を活かそうと「国境なき医師団」のマラウィにおけるエイズ・性感染症対策のミッションに従事しました。医師団は、1999年にノーベル平和賞を受賞し、当時数少なかった日本人ボランティアの私にもマスコミの取材がありました。

その後、ハーヴァード大学公衆衛生大学院にて、「Barriers to Safer Sex Practices among Commercial Sex Workers in Osaka, Japan: Scope for Prevention of Future HIV Epidemic」というタイトルの長論文を書き上げたのですが、この論文の序章に当時外大の准教授をしておられた藤目ゆき先生の「性の歴史学」から引用させていただき許可をいただきました。留学時代の論文に価値があるとすれば、それは藤目先生の膨大な調査研究と深い思索の上に成り立っているからと言えます。博士課程における研究は、大阪の性産業労働者500名を対象としましたが、「風俗嬢」を「性産業労働者」としてとらえる視点は、欧米にあっては珍しいことではなかったのですが、国内では新しく、学会の教育講演を依頼されたこともありました。

北アフリカのチュニジアにJICAから派遣された後、遂にインドで働く機会が2002年にやってきました。デリーのマハトマ・ガンディー通りにあるSEARO(世界保健機関南東アジア



職場巡視：鋼棒の切断をする労働者のヒアリングをする木本



カシミール地方のメヘンディ・ラートにサリーから作った自作の着物を着る

地域事務所)で短期コンサルタントとして、事務所がカバーする11国のエイズ・性感染症の現状を調査し報告書にまとめるのが任務でした。デリー滞在中に何と溝上教授率いるヒンディー語劇を観劇するという思わぬ幸運に恵まれたことも楽しい思い出です。

近年の外大(この時はすでに阪大でしたが)との関わりは、「外国語診療ブック」(2014年、南江堂)という本の英訳をポルトガル語専攻の林田教授にお声掛けいただき、書いたことです。その際に2017年に亡くなられた恩師のJohn H. Bryant アガ・カーン医科大名誉教授(地域保健学専門)の協力を得ました。

現在は、産業医と呼ばれる仕事をしていますが、イタリアで興った産業医学は社会医学の草分け的存在と言えます。労働者が職業病にならないよう予防対策をとるのが主なミッションですが、海外の工場にも安

全や健康の考えが浸透するよう願う今日この頃です。

最後に外大との縁は、生涯の伴侶を外大で得たことでしょうか。つれあいは朝鮮語科ですが、外大という「磁場」が私をいつまでも包んでくれているように感じます。

学歴・学位・資格
1982年 大阪外国語大学インド・パキスタン語学科卒業
1991年 奈良県立医科大学卒業
1997年 ロンドン大学衛生学熱帯医学大学院短期留学
2000-2001年 ハーヴァード大学公衆衛生大学院留学
2001年 大阪大学大学院医学系研究科社会医学専攻卒業、医学博士号取得
2008年 医師会認定産業医資格取得
2014年 労働衛生コンサルタント資格取得
職歴
奈良県立医大放射線科、京大精神神経科、阪和記念病院(救急病院)勤務の後、エイズ・性感染症対策をミッションとしてJICA(国際協力機構)からタイ(1995-6年)、チュニジア(2001-2002)に派遣される。「国境なき医師団」ボランティア医師としてマラウィのエイズ・性感染症対策プロジェクトに参加(1998)。デリーのWHO(世界保健機関)南東アジア地域事務所において短期コンサルタントとして勤務(2002)。その後、堺市行政医師、大阪ガス専属産業医等を経て2013年から日新電機(機械製造・販売業)の専属産業医として現在にいたる。

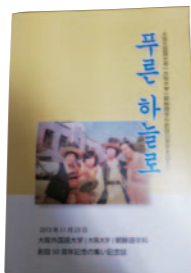
朝鮮語専攻の今

小西敏夫

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 准教授
外国語学部 朝鮮語専攻代表

大阪外国語大学に朝鮮語学科ができたのが1963年です。今年で56年目になります。朝鮮語学科ができた当時は、学生のほとんどが男性で詰襟の学生服を着て授業に出席していたと聞いたことがあります。現在の学生は女子がほとんどで、1学年約20名のうち、男子は2、3人で、中には男子ゼロの学年もあります。

2013年に朝鮮語学科の50周年を迎え、大阪市中央区にあるパル法円坂で、「大阪外国語大学(現大阪大学)朝鮮語学科創設50周年記念の集い」が開かれました。旧教員、現教員、1期生からその年の3月に卒業した卒業生、在学学生が集まりました。その時に、「創設50周年記念の集い記念誌」が作られました。この記念誌は朝鮮語の卒業生には1,000円でお分けしております。まだ残部が少々ありますので、ご希望の方は私の方までご連絡ください。



現在の専任教員は、岸田文隆先生、酒井裕美先生と小西です。外国人特任教員は、趙瑜美先生です。その他に、高橋学先生、南美恵先生、李秀旻先生、秦秀美先生、康宗憲先生、菅野修一先生、金錦花先生、市場淳子先生、黄鎮杰先生、山田恭子先生、李建済先生、文浩一先生の諸先生方にもお手伝いいただいております。

大阪外国語大学時代、韓国の大学2校と交流協定を結んでおりましたが、2007年に阪大と統合されてからは、協定校が9校に増え、学生にとって交換留学に行きやすくなりました。約20名の学生のうち、ほとんどの学生が半年から1年間、韓国の大学に留学に行く学年もあります。

学生の活動としては、5月のいちよう祭に、民族衣装のデモンストレーションを行い、7月の夏祭りには、ビビンパやチヂミ、トッポッキなどを販売したりしています。毎年ではありませんが、民族衣装コンテストで、チマチョゴリ、パジチョゴリを着て踊ることもあります。この数年、語劇が行われていないのが残念です。1年生が豊中キャンパス、2・3・4年生が箕面キャンパスに分かれており、一緒に劇の練習をするのが難しいということが原因の一つではないかと思われます。2年後の移転によって箕面キャンパスと豊中キャンパスの距離が近くなりますが、それに伴って、語劇も復活すればと思います。



今年度の朝鮮語専攻の1年生

ウルドゥー語専攻の今

松村耕光

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 教授
外国語学部 ウルドゥー語専攻代表

1922年、大阪外国語学校印度語部において始まったウルドゥー語教育——。その伝統は、2007年10月の大阪外国語大学と大阪大学との統合以降、大阪大学外国語学部外国語学科ウルドゥー語専攻に脈々と受け継がれています。

ウルドゥー語専攻の学生定員は18名で、日本人専任教員3名、外国人教員1名という教育体制です。現在、ウルドゥー語専攻の教育に当たっているのは、私(教授)のほか、山根聡(教授)、北田信(准教授)、マルグーブ・フサイン・ターヒル(特任教員)です。大阪外国語大学時代に、長年、教鞭をとられていた加賀谷寛先生は1996年、浜口恒夫先生とタバッサム・カーシミーリー先生は2005年に定年退職されています(加賀谷先生は2019年6月19日に逝去されました)。

外国語部語学教育は、統合後も、1年次、2年次に専攻語実習が行われています。1年生の授業は豊中キャンパスで行われますので、1年生の授業があるときは豊中キャンパスまで出向かなければなりません。現在は仮進級という制度がなく、専攻語実習を一つでも落とすと留年です。

3、4年次では、私がウルドゥー文学(恋愛物語や恋愛詩)、ウルドゥー語の歴史と現状について、山根教授がウルドゥー語文献から読み取れる南アジア・ムスリムの諸動向について、北田准教授がダカニー・ウルドゥー語文学、パンジャービー語スーフィー古典詩、南アジアの伝統芸能について授業を行っています。マルグーブ先生は、タバッサム先生と同じく、パキスタンのパンジャーブ大学オリエンタル・カレッジから2015年に来られ、ウルドゥー文学全般について授業されています。政治経済や歴史関係の授業は非常勤の先生にお願いしています。

1979年9月、ゴミゴミした街中のせせこましい上八(大阪市天王寺区上本町8丁目のこと)キャンパスから山紫水明、風光明媚な(?)箕面キャンパスに移って、はや40年。大阪モノレールの駅が出来、いざさか便利になった箕面キャンパスとももうすぐお別れです。



ウルドゥー語専攻教員



ウルドゥー語1年生授業風景

「昔の活気をもう一度」

寺尾佳也

大阪大学 外国語学部 インドネシア語専攻2年
2019年度 語劇祭実行委員長



2019年度語劇祭実行委員長を務めます、インドネシア語専攻2年の寺尾佳也です。大阪外国語大学時代から続く伝統行事を今年度は11月23日(土・祝)24日(日)の2日間に渡って開催する運びとなりました。毎年、ご支援いただいています

咲耶会の皆様方に、外国語学部生を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

語劇祭は、外国語部の学生が日々の語学学習の成果を披露することのできる場です。大阪外国語大学時代から盛んに開催されてきた語劇祭ですが、近年は来場者数が減少して

外国語学部オープンキャンパスは今年も大人気!

井上泰子

会報『咲耶』編集委員長

夏休み真只中の8月10日、箕面キャンパスで外国語部オープンキャンパスが開催されました。気温35度の猛暑の中、3000人余りの高校生と保護者が詰めかけました。

A棟メイン会場では、10時~15時5分の間、25専攻語のプレゼンテーションが、5回のシフトで行われました。どの講義室も満席で、熱心に耳を傾ける受験生の姿が印象的でした。図書館のAVホールでは、保護者向け就職説明会や在学生による就職活動体験談が関心を引きました。図書館見学にスタンプラリーを取り入れるなど、楽しみながら見学ができるよう工夫されていました。



おります。さらに外国語学部キャンパスの移転も予定されており、新キャンパスでの開催についても先行きが不透明となっております。このままの状態では、語劇祭に参加をする学生も減り、キャンパス移転後の語劇祭の開催が難しくなります。そこで、昔の活気を少しでも取り戻すために新たな試みとして、参加する専攻の中から、その専攻の紹介をするブースを作り、語劇を見るだけでは終わらない形にしようと計画しています。

毎年、語劇祭に参加する学生たちも日々の語学学習だけでなく、一つの劇を作り上げるために専攻語一丸となって日々練習をしています。そんな私達後輩の姿を、皆様にご覧いただきたいと存じます。語劇祭実行委員会も昔の活気を取り戻すために日々知恵を振り絞っていますので、皆様ぜひともお問い合わせの上、会場までお越しいただければ幸いです。語劇祭当日、皆様にお会いし、劇を披露できることを楽しみにしております。

福利会館内の生協食堂・売店は、てんてこ舞いの大盛況。暑さと大人数を見越して、今年は、かき氷やソフトドリンクの屋台をB棟前に誘致したとのこと、こちらも大繁盛でした。福利会館2階では、「現役阪大生による相談会」が開催され、在学生ならではの相談に人気が集まっていました。ピンクのポロシャツ姿の学生スタッフは、生協学生委員会のメンバーで、学部を超えてのボランティア活動の一環とのことでした。

キャンパスにこれ程の熱気が溢れ、受験生の憧れの的となる大学のOBであることに、喜びと誇りを感じた一日体験入学でした。



2年ぶり 思いの詰まった夏まつり

大阪大学 工学部 応用自然科学科 応用化学コース3年 川中一輝
第40回大阪大学夏まつり実行委員長

私たち夏まつり実行委員会は毎年7月上旬に開催する「大阪大学夏まつり」を企画・運営するサークルです。今年の夏まつりは7月13日(土)に開催し、終始小雨ではありましたが無事フィナーレの盆踊りまで外で行うことができました。



タイトルにもあるように、昨年は西日本豪雨による影響により中止となってしまったので、今年の夏まつりは2年ぶりの開催

となりました。そのため、夏まつり本番を経験している実行委員が少なく、私自身も含めて夏まつり当日へのイメージを掴むことになかなか難しく苦労したのですが、当日の模擬店、ステージ、盆踊りの活気ある雰囲気や、来場者の方々が楽しそうにしている姿を見ると今まで私たちの取り組んできた活動が全て報われるような思いで、開催できてよかったとひしひしと感じました。また、例年以上に実行委員会のOBOGさんや大学関係者の皆様にはお世話になり、大きなトラブルもなくおまつりが進行出来ました。そして毎年のことではありますが、大阪大学近くの企業様からの協賛や、近隣地域住民の皆様からの協力のおかげで夏まつりは開催できています。当委員会を代表し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、2021年4月に箕面キャンパスが船場東地区に移転することに伴い、来年は現在の粟生間谷のキャンパスで行う最後の夏まつりとなります。みなさんご多忙かと思いますが、是非足を運んでいただくと大変うれしく思います。また、新キャンパス移転後の再来年以降も夏まつりを開催するおおよその目は立ちましたが、現在も協議中です。これからも夏まつりを続けられるよう準備を進めてまいりますので、温かく見守っていただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

平成30(2018)年度学生受賞状況一覧

- ペタンクサークル inspÉ (デンマーク語1年 才木大輔、大塚隆真)
日本ペタンク・プール連盟主催の2018日本学生ペタンク選手権大会において、チーム「inspÉ C」が3位入賞
- 庄 葉 (モンゴル語3年)
モンゴル語スピーチコンテスト実行委員会主催の2018年度モンゴル語スピーチコンテストにおいて優勝
- 宇野寛人 (モンゴル語4年)
NARMAI モンゴル主催の2018年度モンゴル語・日本語弁論大会において、モンゴル語部門優勝
- 小島 駿 (スワヒリ語4年)
第28回創価大学創立者杯スワヒリ語スピーチコンテストで優勝
- 尾崎佐知子 (英語4年)
交換留学先のカリフォルニア大学で優秀な成績を収め、最優秀留学生賞を受賞
- 滝野七歩 (英語1年)
本学部英語専攻主催の2018年度エッセイコンテストにおいて優勝
- 森 愛実 (英語1年)
本学部英語専攻主催の2018年度エッセイコンテストにおいて準優勝
- 石割亜優 (フィリピン語1年)
本学部英語専攻主催の2018年度スピーチコンテストにおいて優勝
- 澤井優花 (トルコ語1年)
本学部英語専攻主催の2018年度スピーチコンテストにおいて準優勝
- 大柳勇太 (ビルマ語4年) 成績優秀に係る受賞
- 木村一輝 (英語4年) 成績優秀に係る受賞
- 勝矢智子 (ハンガリー語4年) 成績優秀に係る受賞
- 武内恵理 (ロシア語4年) 成績優秀に係る受賞
- 牧井 渚 (モンゴル語4年) 成績優秀に係る受賞
- ※学年は平成30年度時点のもの
- 印は、学部長賞受賞者

告知板

受勲者のご披露

●令和元年春の叙勲・瑞宝中綬章

是永 駿氏 (大阪外国語大学名誉教授/元大阪外国語大学学長/
前立命館アジア太平洋大学学長) (大C14/院C1)

平成30年度退職教員

青野繁治 言語文化研究科 教授 (中国語)	高橋 明 言語文化研究科 教授 (ヒンディー語)	新谷俊裕 言語文化研究科 教授 (デンマーク語)
大上正直 言語文化研究科 教授 (フィリピン語)	高田珠樹 言語文化研究科 教授 (ドイツ語)	東 明彦 言語文化研究科 教授 (ポルトガル語)

着任のメッセージ



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
中国語専攻 講師

劉 文兵
リュウ ブンペイ

皆様、はじめまして。劉文兵(リュウ ブンペイ)と申します。中国語と映画論の授業を担当しています。研究テーマは、中国映画史、日中映画交流史、欧米映画におけるアジアの表象となっています。皆様にお目に掛かり、映画の話に花を咲かせる日を楽しみにしています。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
インドネシア語専攻 講師

松村智雄
まつむらとしお

東南アジア地域研究の分野で、特にインドネシアの華人社会について研究してきました。出身は熊本ですが東京生活が長く、大阪は初めてです。東南アジアの言語、文化について熱心に学ばれている学生さんたちと切磋琢磨できることは私にとって大きな喜びです。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
フィリピン語専攻 助教

矢元貴美
やもと きみ

2019年4月に着任いたしました。これまで、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育について実践・研究を行ってまいりました。母校で教育研究に携われることとなり、大変嬉しく思っております。学生たちとの学びを大切にしながら、母語・継承語や第二外国語としてのフィリピン語教育に尽力したいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。



大阪大学 大学院言語文化研究科 言語社会専攻
外国語学部ヒンディー語専攻 助教

拓 徹
たく とおる

印パ間のカシミール紛争について研究しています。授業ではヒンディー語のほか、インドの近現代史、政治などについて教える予定です。近い将来、人口が中国を抜いて世界一になるという重要国インドについて、多面的にその魅力を紹介できればと希望しています。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
デンマーク語専攻 講師

大辺理恵
おおべ りえ

2018年12月よりデンマーク語専攻で講師を務めております大辺理恵と申します。専門はデンマーク語学です。自分がデンマーク語の基礎を学んだ専攻のため精進して参る所存です。今後皆様に色々な場面でお世話になることと思いますがどうぞ宜しくお願い致します。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
イタリア語専攻 助教

霜田洋祐
しもだようすけ

2019年4月に着任いたしました。イタリア近代文学が専門で、特に19世紀の小説の語りの技法について研究をしています。伝統ある大学でイタリア語・イタリア文学を教えることができるのを光栄に思うとともに、身の引き締まる思いでおります。どうぞよろしく申し上げます。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
インドネシア語 特任准教授

ドウプスピトリニ

Hello everybody. My name is Dwi Puspitorini. I am the new Indonesian language instructor at the Graduate School of Language and Culture. Previously, I taught Indonesian as a foreign language at the University of Indonesia. There, I also taught Javanese and Old Javanese. I arrived in Osaka at the end of March, 2019. I am honored to have the opportunity to teach at Osaka University. I hope we can get to know each other and learn about each other's country and culture. Thank you.



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
スウェーデン語 特任准教授

ラーション ウルフ レンナット

Dear former and future students of Osaka University!
After working here for more than six years with teaching Swedish, I am still as surprised and impressed by this dynamic university and its students as ever. Osaka University bubbles with energy, creativity, dreams and ambitions, and I can only compliment you all to an excellent choice of university!



大阪大学 言語文化研究科
日本語・日本文化専攻 特任助教

秦 秀美
チン スミ

このたび、特任助教に着任いたしました秦秀美と申します。韓国ソウル生まれ・ソウル育ちで、韓国の大学で日本語日本文学を専攻しておりましたが、さらに勉強を深めるために、1997年の秋に大阪外国語大学日本語講座の研究生として来日しました。

韓国では主に文学作品を通して日本語や日本文化について学んでいましたが、日本に来て実際に生活していて気付いたのは、日本語と韓国語では言葉の使い方が似ているところもあれば、違うところもたくさんあることでした。そこから私がやりたい研究の方向性を見つかることができました。研究のみならず、生活面でも毎日が新しい発見の連続で、たとえば、ハサミがなくても手で簡単に開けられるように工夫された詰め替え用の液体洗剤を開けたり、飲みやすいように工夫された薬を見つけたりするだけでも、商品に配慮が行き届いていることに気付き、感心したことがあります。このような日常のささやかな発見は日本に来て20年が過ぎた今でも続いており、日常の楽しみの一つとなっております。

研究生を経て同大学院では多くの先生方にお世話になり、すべての基本はわかりやすく丁寧で記述することから始まるという大切な教養をいただきました。教育現場においても受講者とのコミュニケーションを大切に、丁寧でわかりやすい授業の実践を日々心掛けております。大学院修了後は大学院での学びを活かして、大阪や神戸の大学で韓国語を中心に教えていました。大阪大学外国語学部では主に兼修語学を担当していましたが、専攻語であるかのように積極的に参加してくれる受講者が多くとても印象的でした。真剣に学びに取り組むだけでなく、一緒に笑い合える授業雰囲気の中で私自身も教えることの楽しさを学ぶことができました。

大学院時代を過ごした大阪大学にて、特任助教として教育や研究活動をする機会をいただき、心より感謝しております。これまでの経験を活かし、日韓の言語行動の対照分析および外国語学部の教育活動に精一杯努めてまいります。何卒よろしく申し上げます。

UEDA GAKUEN

学校法人 上田学園

http://uedagakuen.ac.jp/

学校法人 上田学園は、70年以上の歴史を持ち、ファッションやデザイン分野の第一線で活躍するクリエイターを輩出し続けています。

(学)上田学園 理事長
上田哲也 大R24

ファッション、ファッショングッズ、靴、バッグ等の企画から生産、商品の販売までのプロフェッショナルな人材を育成

学校法人 上田学園
上田学院服飾専門学校
UEDA COLLEGE OF FASHION

http://www.ucf.jp/

ビジュアルデザイン、インテリアデザイン、マンガ、アニメ、イラスト、声優、コミックアート、フィギュアのプロを養成する

学校法人 上田学園
大阪総合デザイン専門学校
OSAKA SOGO COLLEGE OF DESIGN

http://www.oscd.jp/

マンガ、アニメーション、ゲームを核に、タレント性と情報通信技術やエンタテインメント領域において活躍できる人材の創出

学校法人 上田学園
大阪エンタテインメントデザイン専門学校
Osaka Academy of Entertainment Design

http://oaed.jp/

我が青春の洋弓部

植草美香 (大B40)

私が所属していた大阪外国語大学洋弓部は、1961年創部の歴史あるクラブです。

数ある部活動の中から洋弓部を選んだ理由は、中学・高校を文化部で過ごした私が、皆と同じスタートラインから競技を始められること、1部リーグに属して強いチームと競えること、それから、妹に英語を教えてくれていた家庭教師の学生が大阪外国語大学洋弓部員で、大学受験前から勧誘され、洋弓部に興味があったこと、この3点でした。体育館横のアーチェリーレンジは、緑に囲まれ、時には猿の出現もあり、とても魅力的でした。

春のリーグ戦、国公立戦、あらゆる試合で好成績を収めるため、日々の練習で技術を高め、春夏の合宿で、部員一同寝食を共にし、同期はもちろんのこと、先輩後輩との絆がとても深まりました。この部活動を通して得た貴重なものは、同期という素晴らしい仲間たちと、良き先輩後輩です。日々の練習、トレーニング、ランニング、合宿、コンパ等すべてが良い思い出です。

試合や連盟等を通じての他大学との交流も、貴重な経験でした。洋弓部に所属したからこそ、充実した思い出深い大学生活を過ごすことができました。

大阪大学との統合時、大阪外国語大学洋弓部は大阪大学アーチェリー部と合併し、その後2015年に洋弓部の同窓会も統合されました。

統合後も、現役部員の試合結果や活動報告が定期的にメールで配信され、今もお大阪外国語大学洋弓部と繋がっていることはとても嬉しく思っています。同窓会統合時、ご尽力してくださった方々には本当に感謝しております。

今、私はアーチェリーとは無縁の生活を送っていますが、今回の原稿掲載の機会をいただき、筆を走らせる度に、あの頃の懐かしい思い出が甦ります。



大阪外国語大学体育会 ヨット競技部 創部 55 周年 記念イベント

谷岡 諭 (蒼穹会 大阪支部長 大E19)



2018年9月8日(土)、有馬温泉「向陽閣」に入部第3期(75歳)から第34期(42歳)のOB37名(男32名、女5名)が全国各地から集結しました。ヨット部は1962年に西宮ヨットハーバー(YH)で活動のうぶ声をあげ、3年後に大阪二色浜YHに艇庫と合宿場所を移転し、1987年に大阪北港YHに移転しました。関西学生ヨット競技大会の聖地・西宮YHには、そのつどヨットで遠征しました。学業一辺倒ではなく、海とヨットに熱く青春をぶつけた4年間でした。

阪大との統合により2007年に廃部となりましたが、海を愛するヨットマンはOB会「蒼穹会」に集い、創部周年会を25周年以降5年ごとに続けてきました。しかし、OBの高齢化もあり、今回55周年を盛大にして最後にしようとして泊二日で関西に集結、上記の活動場所を訪れるイベントを企画したのです。一日目は、名湯を堪能し、大広間での宴会に突入、おいしい料理とお酒、ヨット部での思い出話、暴露話などで大いに盛り上がり、皆で往時にタイムスリップしました。二日目は、当初、クルーザーに乗って西宮、北港、二色浜の各マリーナを巡る計画でしたが、あいにく大阪湾を直撃した大型台風21号のためクルーザーが運行不能となり、仕方なくバスでの各地巡りとなりました。何十年かぶりに訪れた各マリーナ、合宿所や艇庫の跡地は大きく変貌を遂げていましたが、記憶をたどり感慨深げに跡地を見つめる各OBの眼差しには共通する追憶と満足感が満ちていました。関空と二色浜マリーナが見晴らせるホテルの最上階での昼食会を最後にイベントはお開きとなりました。

わが青春の大阪外大ヨット部よ、仲間よ、海よ、ありがとう！



大阪大学外国語学部 ラグビー部

アラビア語専攻 3年 主将 石津 彰

我々、外国語学部ラグビー部は、1922年に設立された旧大阪外国語大学ラグビー部を前身とし、一世紀近くに渡り存続している関西でも伝統あるラグビー部です。2007年の大学統合後もOB・OGの方々のご尽力と当部学生の熱意によりチームは存続し、その伝統が受け継がれています。私も主将として、先人たちによって引き継がれてきた当部の歴史と伝統の重みを痛感し、さらに発展させていくことへの期待と、これからの世代へと繋げていく重責と使命を感じ身の引き締まる思いです。

我々は、リーグ昇格、東京外大戦への勝利を目標に掲げ、平日の朝練と土日を含めた週5日、箕面キャンパスグラウンドにて活動しています。今年度は、走り勝つてのポゼッションラグビーを追求し、春シーズンは、日々ランフィットネス・体づくりに取り組んできました。その成果もありOB戦での数年ぶりの現役側の勝利を皮切りに、その後の大阪大学本学ラグビー部との練習試合にも勝利を収めることができました。来週に控える神戸市外国語大学との定期戦でもいい結果を収め、春シーズンを締められればと思います。

今年度はチームスローガンである『initiative』にあるように、それぞれの部員が主体的にラグビーに取り組むことを目標に置いています。自分の成長、チーム全体の成長のために何ができるか、必要か、それぞれが考えて行動することが外語ラグビーを強く、さらに熱い部活にするために欠かせません。

最後に、今年の4月から新入生も入部し、さらにチームは明るく活気きました。まだまだプレーヤー、マネージャーともに募集中ですので、興味のある方はぜひご連絡ください。練習予定、活動予定は随時ホームページで更新しております。こちらもご確認いただければ幸いです。



箕面にも創作拠点を。 大阪大学美術部『箕面支部』

田中 倫 大阪大学 美術部箕面支部
外国語学部 日本語専攻 3年



皆さんこんにちは、大阪大学美術部箕面支部です。

私たちは全学公認団体の大阪大学美術部(阪美)と同一団体であることを明示するため、以前の「箕面美術部」から「大阪大学美術部箕面支部」に呼称を変更いたしました。現在は箕面キャンパスのサークル棟を作品制作の拠点としつつ、部全体の活動は豊中キャンパスの学生会館にある大阪大学美術部と合同で行っております。(支部員は自動的に大阪大学美術部員となります。支部員は現在外国語学部在籍の7名です。)

私たちの主な活動目標は、生み出した作品を各展示会で発表することです。作品は、油彩画・水彩画、平面・立体等、形を問いません。時にはテーマを設定して連作や合作をし、互いに刺激を受けながら楽しく創作できるのも美術部の魅力です。また、春部展(北区中崎町ギャラリー)、夏部展(大阪大学総合学術博物館)、大学祭をはじめ、展示の機会を沢山頂いています。特に、外国語学部文化祭「夏祭り」の展示は、唯一箕面支部が主催するというので、毎年支部員が奮って準備しております。

部室に常備された画材等は誰でも使用可能で、固定の活動日時も無いため、昼休みや空きコマ等の好きな時間に創作を楽しんでいます。兼部されている方、美術初心者の方も各自のペースで活動頂けるので、興味を持ってくださった方はぜひご連絡ください。いつでもお待ちしております。



登録商標 大徳寺
大徳寺特選料理
一久

京・紫野大徳寺前 電話 075 (493)0019
津田 真須美 (大C42)

平成30年度咲耶会総会のご報告

少徳敬雄会長の長年のご尽力に感謝！新会長には大水勇副会長が就任！



平成30年度咲耶会総会が10月20日(土)、大阪大学豊中キャンパス、大学会館にて開催されました。西尾章治郎大阪大学総長をはじめとするご来賓5名、先生方19名を含め、110名の参加者があり、和やかな雰囲気の中で、旧交を温めました。

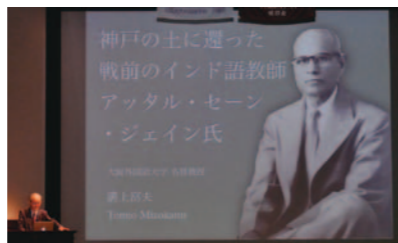
会長7年、副会長4年、合わせて11年の長きにわたり、咲耶会を牽引してくださった少徳会長が、健康上の理由によりご退任。今後は相談役としてご指導くださることになりました。新会長には、少徳会長とともに統合後の咲耶会を支えて来られた大水副会長が就任。就任の挨拶では、前会長の敷かれた基礎の上に、会員の皆さんの協力を仰ぎつつ、咲耶会の持続可能な運営と発展に向けて力を尽くすと、力強い決意を述べられました。

第一部の総会では、平成29年度の決算報告と平成30年度の予算案を承認。新役員・幹事4名が選任されました。会報の24ページにプロフィールを掲載しています。

第二部前半では、第3回「咲耶出版大賞」の表彰式を行いました。協坂洋子選考委員から選考結果の報告があり、賞状と副賞授与の後、大賞受賞者の坂本雅子氏、特別賞受賞者の孫美幸氏に、作品の概要、受賞の感想等をお話いただきました。



後半の講演会では、溝上富夫大阪外国語大学名誉教授に、母校創立100周年にちなみ、「神戸の土に還った戦前のインド



人教師一創設期から戦後期にかけての外語史の断面」とのタイトルでお話いただきました。講演の最後に、昨年インド政府から受勲された「Padma Shri(蓮華勲章)」のインド大統領官邸での叙勲式の厳かな映像が披露されました。



第三部の懇親会では、少徳会長からは感謝の言葉を、ご来賓の西尾章治郎阪大総長、田邊隆一東京外語会関西支部長のお二方からは、心温まるご挨拶を頂戴しました。

(文責: 井上泰子)

会費のクレジット決済をご活用ください

2018年4月から、咲耶会では会員の皆様からの会費、賛助金を少しでもご協力していただきやすくするために、クレジット決済を導入しています。年々、会員が増加し咲耶会活動にかかる予算も増加する中、皆様のご協力、ご支援で咲耶会活動の活性化と母校支援を充実させていきたいと思います。海外からのお支払いも便利になりましたので、海外支部の皆様には、ぜひご活用いただけますよう、よろしくお願いいたします。詳細は、咲耶会ホームページをご覧ください。

このクレジット決済は咲耶会のデータ管理、名簿作成で長年業務委託している株式会社サラトのシステムを利用していますが、クレジット決済に関するクレジット情報は三井住友ファイナンシャルサービスにのみ残るシステムで運用していますので安心してご利用ください。

※ご利用いただけるクレジットカードは、  VISA、Masterのみです。

※咲耶会ホームページから、クレジット決済ページへアクセスすることができます。

<咲耶会ホームページ> sakuyakai.net

なお、本年度から、会報「咲耶」賛助金を、会報以外の多目的に活用させていただくため、単に「賛助金」といたしております。皆様の温かいご理解のもと、ご支援よろしくお願い申し上げます。

コンビニエンスストア・郵便局でのお支払い

毎年、当会より会員のみなさまへ送付する同窓会報に振込用紙を同封しています。お手元に届きました振込用紙をご利用ください。万が一会報が届いていない場合は、お手数でも同窓会事務局へご一報願います。次年度より会報を送付いたします。振込用紙を紛失した方は、郵便局もしくはクレジットカードでの払い込みをお願いいたします(コンビニエンスストアでの払い込みはできません)。払込手数料は、当会が負担いたします。ご利用いただけるコンビニエンスストアは以下のとおりです。



■本年度から、振込用紙を下記の3種類にしました。

- ①年会費 3,000円のみ送付用(郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
- ②年会費・賛助金一括送付用(年会費3,000円、賛助金一口3,000円、計6,000円を一括してお送りいただけます。郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
- ③年会費3,000円+賛助金2口以上の一括送付用(郵便局でご使用ください。金額欄は空欄です。年会費と賛助金の合計額をご記入ください。)

「Osaka University Global Alumni Fellow」の称号を授与しました

大阪大学のホームページ 2019年5月15日の「ニュース&トピックス」より転載

5月3日(金)、この日ホームカミングデイで講演された会議通訳者のランキン朋子さんに対して、西尾章治郎総長から「Osaka University Global Alumni Fellow」の称号を授与しました。



ランキンさんは、大阪外国語大学英語学科を卒業され、アメリカ合衆国国務省契約通訳者などの経験を経て、現在、APEC、国連総会などの国際会議で、政府関係、民間企業海外IRなどでの会議通訳者として活躍されています。

また、2014年4月にオバマ米大統領と天皇陛下との懇談の通訳を務め、15年4月にはオバマ米大統領と安倍首相との日米首脳会談での通訳も務められました。

Osaka University Global Alumni Fellowは、国際的なネットワークづくりの一環として、海外で活躍されている本学卒業生等に授与しています。

「新入生 Welcome Party! 2019」開催

若手活性化委員会委員/在校生支援委員会委員

後藤 峻 (夜F42)

今年も開催しました、新入生 Welcome Party! 例年通り、新入生は30名ほど、部活・サークル紹介で参加の上回生を



合わせると総勢50名ほどに。ここにOGOBも参加して、全員で交流するのがこの企画の醍醐味でもあり目的でもあります。イベント開始時は緊張がありますが、アイスブレイクの自己紹介が終わるころには自然と会話が生まれていきます。恒例の



部活・サークル紹介では、各団体が紹介とパフォーマンスを行います。スライドで活動紹介したり、その場で演奏したりと様々です。合気道部の演舞後には、実際に体験したいという1年生も。笑って、拍手して、交流する2時間余りとなりました。

本企画は6年目を迎えました。この場で出会う1年生は当然初めて見るばかりですが、いつも変わらず、4月から始まった大学生活に期待や緊張する姿と、交流のなかで打ち解けていく姿があります。企画を進めるこちらも同じようにワクワクし、毎年、活力をもらっているような気がします。

EnaLloid

ENNA

Craftsmanship makes a "difference"

Ena Optical Mfg. Co., Ltd.
恵那眼鏡工業株式会社

〒508-0101 岐阜県中津川市苗木 4827-48
TEL : (0573)-67-2211 (代)
FAX : (0573)-67-2214
E-mail : info@ena-gf.jp

学内業界研究会ワールドジョブフェスタ ／ワジョブ・ウーマン

在校生支援委員会 委員 **大辺理恵** (大 DM51・院前中北欧7)

2018年度の後半に眞面キャンパスにて各種の就職関連イベントが咲耶会共催のもと開催されました。2018年10月23日～25日には「インターン説明会」(29社の企業、162名の学生が参加)、11月19日・20日そして26日・27日の4日間には、「ワジョブ・ウーマン」(44社の企業、81名の学生が参加)、また12月10日～17日にかけては「学内業界研究会ワールドジョブフェスタ」(73社の企業、259名の学生が参加)が開かれました。2019年1月15日～17日そして21日には「内定者との相談会」(18名の内定者、46名の学生が参加)そして2月18日～21日にかけては「企業研究会」(44社の企業、99名の学生が参加)が催されました。これらのイベントは、阪大外国語学部生のためだけの学内就活イベントです。このイベントを運営している idG株式会社のアンケート調査には、参加した学生から、「阪大外語のために来てくださっていると聞き、心を開きやすかった」、「外国語学部の人のための説明で少人数でしっかりと話が聞けた」、「外国語学部卒の方がどんな企業で働いているのかを聞くことができよかった」、「外国語学部向けに企業の方が説明してくださるので、ニーズに合っていて良かった」などといった声がありました。

今後も咲耶会では同窓会として何らかの就職サポートができればと考えております。卒業生の皆様にご協力を依頼することがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私の生き方、ここが好き！咲耶茶論

講演会・勉強会組織委員会 委員長 **河井洋子** (大 R27)



毎回好評の「咲耶茶論」は6月29日(土)に、第8回を終えました。このサロン風講演会では、各語科の卒業生の方をお招きして、お仕事やご自身の事など、余り専門的に過ぎず、気楽な雰囲気の中で自由にお話して頂いています。

昨年11月の第6回には英語科卒で英字新聞記者をしておられた笹井常三先生(大 E1)に戦時の外大の思い出、記者時代の様々な経験、会われた著名な方々、毎日新聞「余録」の英訳のエピソードなど、大変豊かな内容のお話をして頂きました。とりわけ、先生の書かれた素晴らしい英文見本の数々には圧倒されました。今年3月の第7回はアラビア語科卒で一般社団法人関西西ムスリムインバウンド推進協議会理事長の梶川佐穂子さん(大 A50)に協会の活動を中心に、イスラム文化全般についてお話を頂きました。行政書士としてのご自身のお仕事、イスラム圏の人達との交流、アラビア語の活かし方など、とても時宜に合ったお話で、質問も沢山出ました。

6月の第8回はインドネシア語学科卒でバリ舞踊家の田中千晶さん(大 IN38)に舞踊に関心をもたれたきっかけ、留学時代のお話、バリ舞踊の踊りの詳細、現在の活動などをお話頂きました。お話の最後には、衣装に身を包み、ガムラン音楽に合わせ、華麗に踊りを披露され、参加者一同は魅了されていました。

今秋11月30日(土)の第9回にはモンゴル語学科名誉教授の橋本勝先生をお迎えします。面白いお話が聞けそうで楽しみにしています。今後も人材豊かな各語科の卒業生の方々の中からお話をさせて頂く予定です。自薦、他薦、随時募集しております。

第4回 咲耶出版大賞が決定しました

選考委員 **藤原克美** (大 R38 大阪大学大学院教授)

卒業生や教員によって執筆・翻訳された出版物を対象に、外語精神溢れる作品を顕彰する「咲耶出版大賞」の第4回受賞者が決定した。大賞には、深尾葉子氏(大 C33)(大阪大学教授)の『黄砂の越境マネジメント 黄土・植林・援助を問ひなおす』(大阪大学出版会)が選ばれた。



今回も、専門的評価の高い学術書や、社会的に関心の高いテーマの作品、意義深い翻訳書など多彩な候補作8点が集まった。

4人の委員から成る選考委員会は、各自読み込んだ結果をもとに議論を重ねた。

深尾氏の作品は、黄土高原における筆者の長年のフィールドワークに基づき、人間活動とコミュニケーションのパターンが生態系の回復や環境に与える影響について論じている。黄砂に対する一般的な理解と、それに基づいてなされる国際援助プロジェクトに対し、筆者の調査経験から問題提起を行っており、そのグローバルな視点と、既存の枠組みを乗り越えようとするチャレンジングな姿勢に、外語精神が溢れているとして、高く評価された。

特別賞として、成瀬龍夫氏(大 C15)の『比叡山の僧兵たち 鎮護国家仏教が生んだ武力の正当化』(サンライズ出版)が選ばれた。成瀬氏は、元滋賀大学学長で経済学の専門家として知られるが、本書は、日本仏教史、あるいは地域史のような分野の書物で、なぜ仏教集団が、不殺生戒を破って武力を形成したのかを検討したものである。本書は、テーマとしても興味深いが、個人的に抱いた問題関心を出発点として、丹念に調査し、論理的にまとめたものとして、ライフワークを書物化する際の一つのモデルともなる作品である。

いずれの作品も、是非多くの人に手に取って頂きたい。

「古書」が繋ぐご縁

咲耶会事務局

昨年悪天候により中止となった夏まつりは2年ぶりの開催。『咲耶会の古本屋さん』は昨年度の語劇祭の日の出店を入れると通算 7回目になります。先生方、卒業生から寄付していただいた本を無料で提供しているので大人気です。会場では「楽しみで来させてもらいました」という声をたくさん聞くことが出来ました。ご来店いただいているのは、学生さんはもちろんこと、地元の方も。「〇〇語の本はありませんか？」と元氣よく質問してくれたり、外国語学部以外の学生さんも「(大先輩)司馬遼太郎氏の書籍は読みました」と話してくれたりと交流しながら出店を楽しむことが出来ました。書籍の種類は原書もありますし、日本語の本もあります。ジャンルは人文系から理系、芸術系など、多岐に渡っています。皆さん、思い思いの好みの書籍を持ち帰ってくれました。寄付していただいた本が後輩や



地域の方に渡り、役立つことを大変うれしく思います。貴重な本を寄付して下さいました。誠にありがとうございました。

最後にお願ひがあります。ご自宅で眠っている本を咲耶会に寄付していただけませんか？(〒562-8558大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1大阪大学外国語学部E棟1階)咲耶会事務局までお送りください。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

ホームページを刷新しました

同窓生活動広報委員会委員長 **上原順一** (大 R38・院 R22)

咲耶会がホームページを開設したのは、2011年4月です。構成は比較的単純で、主として本部・事務局、支部、委員会からのお知らせなどでした。その後、会費のクレジット決済とそのリンクの設定、会報『咲耶』の公開、バナー広告の導入などを行い、情報を一方的に発信するだけではなく、より多くの皆さまに咲耶会とのつながりを実感していただくように努めてまいりました。この中で、ホームページを形成する仕組みを刷新したほうが良いのではないかとのご意見をいただくこともあり、2019年4月にリニューアルいたしました。新しくなったのは、いわば基幹部分であり、変更点が表面的には見えにくいかもしれませんが、全体的にシュツとしたと考えております。また、SNSへのリンクもわかりやすくなりました。速報や小ネタは



Facebookなどに書き込んでおります。ぜひご覧ください。

新役員・幹事紹介

小林正受 (大 E16)



この度副会長を拝命致しました。輝かしい歴史の下、多彩な人材に恵まれた我が咲耶会のポテンシャルは魅力に溢れています。一方、会の運営基盤たる財務状態の悪化は深刻で、このままでは会誌『咲耶』の発行すらも危ぶまれる事態が予測されます。しかし咲耶会の伝統の灯は消すわけにはいきません。微力ながら会の財務改善に全力を尽くす所存です。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

西尾 齊 (大 E11)



咲耶会本部幹事会の末席に加わることになりました西尾 齊です。京都支部の事務局を担当している関係で咲耶会事務局の方々とは、メールでの遣り取りをさせて頂いていますが、本部幹事会への出席となると些か緊張を禁じ得ません。“Festina Lente”の心構えで微力を尽くす心算です。よろしくお願ひ申し上げます。

深川泰博 (大 E16)



昨年の総会で幹事に就任した深川です。1968年英語科卒。1945年2月、広島県安芸の宮島生まれ。終戦の半年前でした。爆心から40Kmほど離れていたため、原爆の直接的影響は無かったようです。(少なくとも今日まで?)

卒業後、松下電器産業(現Panasonic)に入社。4年先輩に前会長の少徳敬雄氏がおられました。同社では主として国際広報業務に従事、米国松下に4年間駐在。創業者の松下幸之助氏の傍で仕事をした最後の世代でした。

退職後のpastimeは、植物中心の自然観察と、謡、仕舞などの能楽の嗜み。幹事としての抱負は、学生諸君がマンモス国立大学にあって、臆することなく、異彩を放つ活動をグローバルに展開できるよう、微力ながらお手伝い出来れば…ということ。

後藤 峻 (夜 F42)



咲耶会活動としては、新入生歓迎イベントや外語マガジン『sakuya』などに既に関わってきました。当時、事務局の担当者が熱心に咲耶会の運営を行っていた姿を見て協力したいと思ったことがきっかけです。外語の文化がこれからも続くよう、30代の感性を発揮した企画づくり、世代をつなぐような役割を担えればと思います。皆様よろしくお願いいたします！

平成30年度 決算報告 (平成30年7月1日～令和元年6月30日)

	決 算	(単位: 円)
収 入	入会金収入	2,075,000
	年会費収入	3,918,000
	咲耶賛助金収入	2,008,800
	咲耶広告収入	383,000
	名簿及年史収入	37,200
	総会収入	380,000
	雑収入	141,871
	合計	8,943,871
支 出	援助金	512,009
	事業費	1,455,783
	運営費	3,956,395
	咲耶作成費	2,483,221
	咲耶通信費	1,700,027
	咲耶振替手数料	37,787
	合計	10,145,222
	収支差額	-1,201,351

期首正味財産(前期より繰越)	47,135,491
期末正味財産(次期へ繰越)	45,934,140

<令和元年度予算案に関する補足>

●収入の部については、項目名を、従来の「咲耶賛助金収入」から「賛助金収入」に改めました。今後は、会報「咲耶」の作成費に限らず、多目的に活用させていただきます。

咲耶会行事・会議

2018年

- 10月 20日(土) 平成30年度咲耶会総会・講演会・懇親会 (於: 大阪学生会館) 幹事会(幹事・支部長会議) 会長・副会長会議
- 10月 23日(火) World Job Festa「インターン説明会」～ 25日(木) (於: 箕面キャンパス福利会館)
- 11月 2日(金) 大阪大学まちなか祭(於: 豊中キャンパス)～ 4日(日)
- 11月 8日(木) 司馬遼太郎記念学術講演会(於: 大阪学生会館)
- 11月 17日(土) 第6回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)
- 11月 19日(月) 「ワージョブウーマン」～ 27日(火) (於: 箕面キャンパス福利会館) (月、火、計 4回)
- 11月 24日(土) 語劇祭(於: 箕面キャンパス)・25日(日) 「咲耶会展示および休憩スペース」開設、「古書市」出店
- 12月 10日(月) World Job Festa「業界研究会」～ 17日(月) (土、日を除く 6日間)

2019年

- 1月 15日(火) World Job Festa「内定者相談会」～ 21日(月) (於: 箕面キャンパス福利会館) (金、土、日を除く 4日間)
- 2月 1日(金) 会長・副会長会議 (於: TMI総合法律事務所 大阪オフィス)
- 2月 16日(土) 幹事会(於: 中之島センター) ※テレビ会議システム併用
- 2月 18日(月) World Job Festa「企業研究会」～ 21日(木) (於: 箕面キャンパス 福利会館)
- 3月 16日(土) 第7回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)
- 3月 25日(月) 大阪大学卒業式・学位記授与式(於: 大阪城ホール) 入会案内

令和元年度 予算案 (令和元年7月1日～令和2年6月30日)

	予算案	(単位: 円)
収 入	入会金収入	2,500,000
	年会費収入	4,200,000
	賛助金収入	2,100,000
	咲耶広告収入	506,000
	名簿及年史収入	31,000
	総会収入	600,000
	雑収入	173,000
	合計	10,110,000
支 出	援助金	600,000
	事業費	1,350,000
	運営費	3,920,000
	咲耶作成費	2,400,000
	咲耶通信費	1,800,000
	咲耶振替手数料	40,000
	創立100周年記念事業寄附金	10,000,000
	合計	20,110,000
収支差額	-10,000,000	

期首正味財産(前期より繰越)	45,934,140
期末正味財産(次期へ繰越)	35,934,140

●支出については、大阪外国語大学創立100周年記念事業・箕面新キャンパス整備事業(大阪外国語大学記念ホール)への寄附金として、1000万円を計上しています。11月2日の咲耶会総会での承認を得て、執行いたします。

- 4月 1日(月) 新入生オリエンテーション(於: 箕面キャンパス) 咲耶会紹介
- 4月 2日(火) 大阪大学入学式(於: 大阪城ホール) 外国語学部新入生保護者会(於: 京橋 MIDタワー)
- 4月 20日(土) 新入生歓迎会 (於: 豊中キャンパス カフェテリア「かさね」)
- 5月 2日(木) ・3日(金・祝) 大阪大学いちょう祭
- 5月3日(金・祝) 大阪大学ホームカミングデー(於: 豊中キャンパス)
- 6月 29日(土) 第8回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)
- 7月 13日(土) 大阪大学夏まつり(於: 箕面キャンパス) 「咲耶会古書市」出店
- 7月 25日(木) 会長・副会長会議(於:TMI総合法律事務所 大阪オフィス)
- 7月 27日(土) 大阪大学の集い in 香川(於: JRホテルクレメント高松)
- 7月 28日(日) 平成30年度 咲耶会会計監査
- 8月 3日(土) 幹事会(於: 大阪学生会館)
- 10月 25日(金) 司馬遼太郎記念学術講演会(於: 大阪学生会館)
- 11月 2日(土) 令和元年度 咲耶会総会・講演会・懇親会 (於: 大阪学生会館) 幹事会(幹事・支部長会議) 会長・副会長会議 ・詳細は「咲耶会総会案内」をご覧ください。(3ページ)
- 11月 2日(土) 大阪大学まちなか祭 (於: 豊中キャンパス)～ 4日(月)
- 11月 23日(土) 語劇祭(於: 箕面キャンパス) ・24日(日) 「咲耶会展示および休憩スペース」開設
- 11月 30日(土) 第9回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)
- 12月 7日(土) 大阪大学の集い in 東京(於: 東京国際フォーラム) ★各委員会活動については省略しています。

「生まれて60年のトロロ会」小黒 一 (大 IN7)



トロロメンバー：向かって左から小黒、丹羽、吉田、出口、前田

1. 誕 生 昭和34年(1959)
2. 場 所 道頓堀のとある小料理店
3. 会名の由来 トップ シークレット!!
4. 会 員 インドネシア語科を昭和34年に卒業し、且つ全員が陸上競技部に所属した、以下の5名 出口久生(マネージャー) 前田正一(中距離) 丹羽宏造(投擲三種) *円盤投げ・砲丸投げ・槍投げ 小黒 一(短距離と円盤) 吉田 稔(中距離)
5. 歴 史 海外駐在等で、約30年間一堂に会すことかなわず。平成元年によやく第二回を岐阜県中津川市で開き、以後回を重ねて、2017年以降は、出口兄のお世話で浜松市の超高層ホテルの日本料理店で開くに至る。 幸ナル哉!(写真はそれ以前のもの)
6. 内 容 浅酌の後、形而上の話から、急転直下し形而下(?)の話まで、談論風発を常とす。(小黒記)

大阪外国語大学グリークラブ OB合唱団について

大阪外国語大学グリークラブ OB合唱団大阪代表 **梶江靖史**(大 IN17)



2019年5月26日 第32回 箕面市合唱祭 於 箕面市ミナミホール 大ホール

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団は今年で創部93年目を迎えますので、それを記念し、創部93年記念演奏会を11月4日(月・祝日)にクレオ大阪中央で、来年1月25日(土)に東京上野公園内旧音楽学校奏楽堂で、いずれも全国に散らばっているOBを集め演奏会を開催致します。今回の演奏会も例年同様「Gaigo will shine tonight」を歌いながら幕を開け、「Varsity」学歌と歌い継いで演奏会を開始致します。第1

ステージは毎回記念演奏会で歌っております「黒人霊歌」6曲を歌い、第2ステージではロシア民謡5曲をロシア語と日本語を交え歌います。第3ステージではグスタフ・マーラー作詞、作曲による男声合唱とピアノ伴奏の為の楽曲「さすらう若人の歌」全4曲をドイツ語で、しかも弊団としましては初めてピアノ伴奏付きで歌い、最後の第4ステージでは大学の先輩であります清水脩作曲(大手拓次作詞)による組曲「大手拓次の三つの詩」を演奏致します。

OB合唱団の団員も年々歳を重ねておりますが、体力の衰えは気力を持ってカバーすべく日々気力を充実させて練習に励んでおりますので、是非皆様も演奏会を聴きにきていただけますようお願い申し上げます。

ヒンディー語 1981年～84年卒 同窓会報告

北野園恵 (大 IP29)



2018年9月16日に箕面キャンパス内大阪外国語大学記念会館にて、桑島先生、溝上先生、高橋先生をお招きし、総勢20名の同窓会を開きました。

2018年は、6月M6.1の大阪北部地震、7月西日本豪雨、9月4日台風21号関西直撃と、自然災害が立て続けに発生し、9月16日の同窓会開催が危ぶまれていました。当日は皆の願いが通じたかのように、朝方の雨もやみ、晴天に恵まれ、カリフォルニア州、東京、神奈川、埼玉、富山、広島、香川と遠方からの先生、卒業生も無事参加できました。卒業後37年ぶりの再会の場でもあり、桑島先生と溝上先生にはそれぞれ1時間に及ぶ熱い講義をして頂き、昼食後の少しの睡魔との闘いもあり(?),まさに学生時代にタイムスリップしたかのようでした。高橋先生の阪大との統合のお話、思い出の写真スライドショー、演奏家横山裕子さんによるお箏演奏、グリークラブ出身の卒業生によるインド国歌斉唱、全員の合唱、景品くじ引きと6時間に及ぶ同窓会を楽しく、賑やかに終えました。交通不便な粟生間谷からの帰路を気にしながら、名残惜しい散会となりました。

次は、2023年、さらに大勢のヒンディー語卒業生の方々にもお声掛けし、同窓会が開催できたらと思っています。

「アヴローラの会」 第24回 総会を終えて

夕崎啓子 (大R23)



去る6月15日大阪大学待兼山会館で、大阪外国語大学ロシア語学科・大阪大学外国語学部ロシア語専攻同窓会「アヴローラの会」第24回総会が27名の参加で行われました。

冒頭、この1年間の物故者に黙とうを捧げました。代表幹事、大阪大学と咲耶会からの挨拶、会計報告と同監査報告を承認。その後の記念講演は、1973年外務省に入省し2013年在アゼルバイジャン特命全権大使としてその任を終えるまでの40年間、ソ連邦、ロシア、中央アジア諸国で外交官として活躍された渡邊修介氏('73年卒)に『今後の日ロ関係の展望』と題して語って頂きました。『領土不拡大』は人類が到達した英知である」と始められた氏はエピソードや統計を示しながら「北方領土問題は解決できる」と締めくくりました。

さらに、外交官生活で得た教訓の一つが「想定外の出来事は起こり得る」であったこと、ベルリンの壁崩壊では「自由を求める人々の熱い心」と「人はパンのみにて生きるにあらず」を実感したこと、またソ連邦の崩壊時「人々はいつものように仕事をし、冷静だった」とも語られました。その上で「薄っぺらな人間関係では領土問題は解決できない。多彩な人的交流が必要。特に若者の交流がカギ」と、退官後の「日露青年交流センター」での取り組みを紹介されました。豊富な経験を基に近現代史のポイントを押さえ、ユーラシア大陸、東アジア、日本を俯瞰できる氏ならではの貴重な講演でした。

講演後の楽しい懇親会、待兼山修学館での四國五郎展参加も含め、ロシア語学科らしく素晴らしい総会でした。

“イマジンKIMONOプロジェクト” 支援者のひとりとして

松尾美江 (日本語大 49)



在学中にふとした縁で訪れた福岡にて主人と出会い、現在、博多人形師である彼とともに小さな工房を営んでいます。ここ数年、日本の伝統工芸を海外に発信しようという動きが活発で、私も主人や友人とともに制作した人形や帯を外国に紹介しようと積極的に動いています。なかでも、「イマジンワンワールドKIMONOプロジェクト」は三年ほど前から支援者のひとりとして活動を見守っています。このプロジェクトは、【世界はきっと、ひとつになる】をスローガンに、世界各地にある約200もの国々を、それぞれ一組の着物と帯で表現し、制作しているというものです。外大箕面キャンパスでさまざまな人種の先生方や友人と過ごし、他国の文化にたくさん触れられた経験はプロジェクト支援の原動力となっています。

先日、開催されたG20福岡レセプションでも、主人の博多人形・制作実演ブースで通訳案内役をさせてもらい、その舞台上では「KIMONOプロジェクト」の華やかなショーが会場を盛り上げてくれていました。その後、G20大阪サミットでもこのKIMONOが活用され、心からの歓迎が伝わる「おもてなし」だと高い評価を受けました。すべての制作・活動費は支援者の寄付でまかなわれているため、もし、興味をもち共感して下さった同窓のかたがおられましたら、ぜひご協力お願いいたします。皆さんの世界へ馳せる想いがプロジェクトをゴールへと前進させてくれるよう祈っています。

一般社団法人イマジンワンワールド

【KIMONOプロジェクト】公式サイト <https://piow.jp/>

IN21回生同窓会in黒姫 小田敏治 (大IN21)



昨年は徳島阿波踊りを、今年はアルプスを眺めながら信州料理に舌鼓を打ち、美味しいお酒と汁料理をいただきました。全国各地を持ち回りで開催しており次は知多半島で海鮮料理となる予定です。

皆さん老いて益々元気で次回も盛り上がりそうです。

大阪外大&大阪大学軽音楽部の集い

田中喜博 (大A37)



軽音楽部OB・OGでは、7月15日(祝)に咲耶会様の多大なご助力の下、大阪外国語大学記念会館において「大阪外大&大阪大学軽音楽部の集い」と銘打ったパーティーを開かせて頂きました。

元々は、懐かしい箕面キャンパスが迎える2021年の移転に際して、音楽を通じて何か思い出を作れないか?とのメンバーの思いを咲耶会様にお伝えした事がきっかけとなり、ご相談の中で同会館についてご紹介を頂き、この日を迎える事が出来ました。

当日は井上泰子咲耶会副会長をはじめ咲耶会神戸支部の皆様等、軽音楽部OB・OG以外にも多くの方々に参加頂きました。軽音楽部にとりましても80代の大先輩から、当日機材設置から会場運営まで快く協力頂いた20代の現役部員の皆様まで半世紀を超える仲間が集い共に演奏できた事は何物にも代えがたい思い出となりました。

当日は、OB・OGより2バンド。現役生を含む参加者によるセッションと盛り沢山の一日となりました。また演奏後は現役部員の皆様の指示の下、お借りした機材を参加者の手で懐かしい部室に運ばせて頂きました。自分たちの現役当時とまったく変わらない部室の佇まいに皆大変喜んでおりました。



最後に参加者全員で演奏した“Country Road”は懐かしい箕面キャンパスへ続く道であり、未来に続く道である事を確信出来ました。関係者各位に心よりお礼を申し上げますと共に、今後も移転へ向けて音楽を通じて皆様とご一緒できればと願っております。

お問合せ: 久保田(82年入学/IN)、田中(85年入学/A) OUFSLMC_2019@outlook.jp

※ Cと2の間は“アンダーバー”です

北海道支部

笹山喜市 (大IP25)

大会会長を迎え第6回総会開催

7月13日(土)に第6回支部総会を会員14名出席(札幌、函館、帯広、室蘭)のもと開催しました。

大会会長、箱木東北大学名誉教授ご夫妻、また、総会で記念講演をしていただいた大阪大学ご卒業の作家 杳沢久里さんにもご参加いただき、にぎやかに進みました。

総会に先立ち記念講演では杳沢先生に、大阪弁で懐かしい大阪の風情と北海道の文壇のお話をいただきました。総会では、過年度の事業報告と決算報告、および今期の予定として、11月3日(日)に秋の園遊会(ジンギスカンパーティー)を札幌で行うこと、会報の発行、そして来年は道東帯広市で総会を開催することなどの計画を発表しました。



総会に引き続き行われた懇親会では、冒頭、大会会長より、現在の箕面キャンパスが移転すること、移転に伴い新キャンパス整備事業として「大阪外国語大学記念ホール」建設事業が進んでいる旨、また、大阪大学との統合後も、同窓会としては咲耶会が最も活発であること、その一方で新卒業生の咲耶会入会が減少しているなどの報告がありました。

続いて、出席者全員より、大阪の思い出、上八の思い出、箕面の思い出、そして各人の近況の報告があり、楽しく語り合いました。今回は1960年卒から2014年卒(大阪大学卒業)まで幅広い年代層が参加していただき、今後も各年代層でネットワークが広がっていく期待が持てる総会となりました。

東北支部

黒木一吉 (II E10)

咲耶会東北支部 2018(10周年記念) 支部総会 新会長迎え 10回記念総会を開催

咲耶会東北支部の平成30年度総会は11月17日、J R仙台駅ビルの居酒屋で、大水勇会長、樽井一仁副会長、久保義昭東京支部長、加来洋二郎前本部幹事、それに喜多義憲前北海道支部長の来賓を迎えて開催した。



大水会長を囲んでの東北支部総会(仙台市内で)

支部だより

仙台支部改め東北支部となって通算10回目。黒木支部長が歓迎挨拶を述べた後、大水会長は同窓会の現状を紹介しながら「母校は3年後に開校100周年を迎える。記念事業の中で箕面新キャンパスを整備中だが、この中で大阪外国語大学記念ホールの設置が決まった。母校名が残るホールにぜひ協賛願いたい。同窓会は楽しくなければならない。女性の入学が年々増えており、同窓会も女性が参加しやすい活動を展開してほしい」と要望した。

この後、JICAで2016年から2年間、ネパールに滞在した齋藤小夜里さん(大S、2006年卒)が「青年海外協力隊の目を通じたネパールの魅力」と題して講演。「ネパールは決して富裕ではないが、皆笑顔で生活。帰国後、電車でほとんどすべての人がスマホを操作する光景を見て、真の豊かさとは何か、考えさせられた。もっと楽に生きた方がいいのではないかなどと写真を披露しながら、ネパールへいざなった。

引き続き、来賓のスピーチがあり、支部会員も近況報告。箱木眞澄東北大名誉教授(大E)、桜井元秋田朝日放送社長(大D)、清水記行東京商工リサーチ東北地区本部長(大IT、現本社情報本部副本部長)、中村勝彦豊橋商工信組常務理事(大M、現理事長)、宮城県庁勤務の高橋啓介さん(大PH)、それに特別ゲストのトラベル会社経営山口ステファン氏(山形県最上町)も抱負を述べた。

懇親会では「キンキラ節」が出て合唱するなど、「上八」校舎に学んだ先輩らが現役時代を振り返り、しばし「杜の都」仙台の夕べを楽しんだ。今年3月下旬には秋田、岩手、宮城在住の会員6人が秋田市に集結し、懇親を深めた。今年の支部総会は11月16日午後3時から仙台市内で開催する。

東京支部

樽井一仁(大R23)

咲耶会東京支部ビアパーティ



咲耶会東京支部恒例のビアパーティを7月27日(土)6年ぶりに学生会館で行いました。参加人数は80名で、内訳は男性60名・女性20名、2000年以降の卒業生17名、大阪大卒業生12名でした。年齢層は20歳から91歳と多岐にわたり老若一体化し、楽しいひと時を過ごしました。

今年は、来年の企画として考えている東京外大の現役学生2名(アルゼンチンタンゴ同好会)を招待し、雰囲気を楽しんでもらいました。

今年のメインは、昨年に続きベリーダンスを4名で踊って頂きました。昨年は会場が狭いこともあり熱気が感じられましたが、今回は舞台上での踊りであり、より洗練された踊りが見られました。



来年の夏は新しい若手メンバーを加えた企画で、多くの方々に楽しんでいただけるビアパーティを実施したいと考えています。

名古屋支部

白岩 修(大D19)

平成30～令和元年度咲耶会名古屋支部活動状況

当支部では恒例の月例会「三水会」(毎月第三水曜日正午から約2時間の昼食懇談会)をアパホテル名古屋錦5F 日本料理「伊勢」で開催しています。活発な意見交換に花咲き楽しい会となっています。毎回10名前後の参加を得て、政治問題、外交問題、趣味、子供、孫など諸々の話題で楽しい会となっています。是非一度、ご参加ください!お待ちしております。



平成30年12月8日(土)には総会(忘年親睦会)を開催し24名の参加がありました。咲耶会の財政状況が非常に厳しく、「年会費」、「賛助金」を支払って頂くようお願いをしました。又、2021年創立100周年・箕面新学舎整備事業への募金のお願いもしました。

本会ではゲストスピーカーとして土森道雄氏(大TV17 集合写真後列右から2人目、外大卒業後日本陶器に入社)をお迎えし「インドシナ半島:歴史と少数民族。タイ北部山岳少数民族子弟の教育支援活動」と題し、大変興味深い講演をしていただき参加者一同大変感銘を受けました。

又、平成31年1月16日(水)夕刻には新年会を開催し、15名の参加を得ました。日本料理「伊勢」の美味しい料理とお酒で歌が出たりして非常に盛り上がり、会員間に尚一層強い絆が生まれました。

尚、本年12月14日(土)12:00～14:30には昨年同様「アパホテル11Fビルゴ」で総会(忘年親睦会)を開催致します。ゲストスピーカーとして木越 勉氏(大S26)をお迎えし「私のスペイン語とのかかわり」と題し講演をしていただきます。詳細は後ろの「支部総会のご案内」をご覧ください。

又、令和2年1月15日(水)17:30～20:00には今年同様アパホテル5F 日本料理「伊勢」で新年会を開催致します。皆様のご参加をお待ちしています。

長野支部

山西敏博(長野・鳥取・島根支部長)

大阪大学大学院 言語文化研究科 博士後期課程 満期単位取得



2019(令和元)年8月 第1回 咲耶会 長野支部 設立同窓会

2018(平成30)年12月 第1回 咲耶会 鳥取支部復活・島根支部設立・合同同窓会

8月10日(土)、【2019(令和元)年 第1回 咲耶会 長野支部 設立同窓会】が、松本市内のホテルにて盛大に行われました。長野県の会員は、総勢140名強中、参加者数14名でした。内訳は県内11名で、滋賀県、神奈川県、東京都からのご来訪もありました。これに先立ち、昨年12月22日(土)【2018(平成30)年 第1回 咲耶会 鳥取支部復活・島根支部設立・合同同窓会】が、鳥取県米子市内のホテルにて盛大に行われました。鳥取・島根両県の会員は、総勢260名強中、参加者数13名でした。内訳は、島根県9名・鳥取県4名でした。

今回は、鳥取支部の復活と島根支部を設立してきた山西が長野県(上田市)に異動をしたことから、新長野支部を設立しました。今回は支部設立記念同窓会となりました。

お盆のご多忙の折でしたが、同窓生同士の初顔合わせに、皆様大変喜んで頂きました。

2020年度は【8月8日(土) 18時～:松本市・ブエナビスタホテル】(予定)での同窓会を宣言して、2019年度の第1回同窓会は閉じました。同じく「鳥取・島根支部合同第2回」では【2019年11月16日(土) 18時～:米子市・ANAクラウンプラザホテル米子】で行います。連絡先:080-3237-0225 / ezm11541@nifty.ne.jp

石川支部

吉田孝子(大IT37)

平成30年度の第2回定例会は、金沢市民芸術村内の「れんが亭」で11月25日(日)に開催しました。



当日は天候に恵まれ、少人数ながらもごやかな会でした。これに先立ち事務局より福井県での「大阪大学の集い」のチラシを送付し、8月には石川から福井県へ3名が参加しました。

定例会では大阪大学での総会の内容の概略をお伝えして、他は近況報告で終了しました。初めて参加される方もおり、同窓生が集う機会があることは貴重なことであると再認識しました。内容を充実させることも必要ですが、まずは参加者が増えることを期待しています。今年も、皆様の参加をお待ちしています。

岐阜支部

丹羽宏造(大IN7)

渤海国と言うと何か謎めいた国で受験勉強時にチラッと覗き見をした記憶がありませんか?岐阜支部の総会は11月18日にJR岐阜駅横のじゅうろくプラザ内「ラ・ローゼ プロバンス」で開催。今回は岐阜支部会員ロシア語4回卒の玉木功一先輩に「渤海遺跡探訪の旅」と題する卓話を依頼し、謎めいた国に思いを馳せました。出席者は11名でしたが、デンマーク語加藤健二君、スペイン語幸協裕輔君、フランス語吉村文子さん等々若手に参加いただいたお陰で出席者の平均年齢が例年より下がりました。

残念なお知らせがあります。長年にわたり、お世話いただいた安田哲司様が今年4月13日に逝去されました。謹んで感謝と哀悼の意を表したいと存じます。

京都支部

西尾 齊(大E11)

2018年度の京都支部例会が、10月13日、京都ガーデンホテル「彩宴」(京都市中京区室町御池南入)で開催され、神谷忠雄奈良支部長をはじめ25名の会員の参加がありました。



○講演 同志社大学名誉教授で新村出記念財団代表理事の玉村文郎さん(大F1)から、「新村出博士と『広辞苑』」と題してお話をお願いしました。1月に『広辞苑』の第七版が刊行されたことでもあり、時宜に合った講演でした。

→「出」という名は、父が、山口県と山形県の県令であったことから「山」という字を重ねて命名されたそうです。

○総会・懇親会 会務、会計についての報告を了承、支部推薦の咲耶会本部幹事に、大E11の西尾齊を選出。総会議事のあとの懇親会は、会員相互の交歓の場として大いに盛り上がりました。

奈良支部

神谷忠雄(大E4)

支部会員の皆様に、先ずおわび。本年4月早々から、支部長家族の事情急変のため、諸事務が停滞しまして、約3ヶ月が過ぎ、本年度支部総会は開催する事が出来ませんでした。7月に入り、ようやく少々事情が好転いたしまして、目下、遅れを取り戻しつつあります。誠に迷惑、ご心配をお掛けしまして、申し訳ございませんでした。

平成30年度(31年3月末)決算は、資産残高¥1,162,610にて、詳しくは、近日中に決算報告を送付します。本年度支部総会は、令和元年11月3日(日・祝)に、奈良市にて開催を予定しております。

支部だより

神戸支部

大森久美子(大DM36)



神戸支部は、2018/7/8ビアパーティ(19名)、12/2忘年会(15名)、女子会(通称KBWS)は8/5(9名)、2019/1/20(8名)と活動を重ね、令和元年 5/25、箕面キャンパス大阪外国語大学記念会館にて、支部内外から42名が集い「支部総会～さよなら&ありがとう箕面キャンパス～」を開催。大内一外国語学部長の飛び入りご参加に始まり、NHK大阪報道局リポーターの小川真由さん(日本語大56)のご講演、小川さんを囲んで後藤峻さん(夜F42)、菊池信孝さん(開発大57)の30代トリオによるキャンパストーク、参加者からは統合裏話や古代(高槻)・中世(上八)・現代(箕面)歴代キャンパスよもやま話提供と盛り上がり、最後はスワヒリ語科竹村景子教授による箕面キャンパスポレポレッター(アフリカ布カンガのミニ講義付き)で熱くフィナーレ。参加者は6割以上が女性、40代>50代>30代がメインでした。外国語学部・外大卒だけで年代も語科も越えて楽しむ箕面キャンパス愛に溢れた時間を満喫しました。

今後も多様性溢れるオープンな場作りを目指します。開催情報ご希望の方は大森久美子(大DM36) kkmom93@yahoo.co.jp までお気軽にご連絡を。

播但支部

岩田正美(大R28)

咲耶会播但支部は、白鷺城で有名な姫路を中心に播州、但馬にわたる約600名の会員から構成されており、釜谷支部長の下、50年近く活動を続けています。毎年開催される総会・役員会では、30人近い会員が集い、今は懐かしい高槻校舎、天王寺校舎のことや海外経験も豊富な幅広い人脈の層から貴重なお話を伺っております。

昨年の5月に開催された総会では、支部会員である姫路文学館の副館長から姫路文学館の司馬遼太郎記念室(平成8年開設)の話があり、当記念館では「播磨灘物語」など播磨とのつながりを資料やグラフィックで紹介しています。司馬氏は祖父の代まで姫路だったようです。また、「播磨国風土記」について、研究されている方もおられ、播州の地域性が生かされてきた支部とも言えます。しかしながら、近年、若い会員の大阪、東京方面への進出も多く、実家に総会等の案内を出しても宛先不明で返却されることが多く、若者離れが顕著です。一方で、東京支部等での賑わいを会報等で目に当たりにすると、まさに日本の縮図でもあり、地方において支部を継続することがいかに困難か、痛感される次第であります。

香川支部

小野 博(大E5)

悲しい事ですが、昨年8月、小林立(大C8)支部長が亡くなりました。同氏は香川大学で中国語科教授として長年勤められました。新支部長には大西晏氏(ロシア語学科昭和24年卒)が就かれました。同氏は、伝統ある高松交響楽団の会長を長年務められ、令和元年6月の定期演奏会でチェロ奏者として、100回目の演奏をされました。

さて、平成30年度の香川支部総会は8月18日(土)午後5時より、栗林公園北門近くの「ルポール讃岐」で開かれました。出席者は10名で、海外旅行や音楽の話で和やかな雰囲気でした。

終わりにりましたが、香川支部では、若い方の出席も望んでいます、よろしくお願いします。



出席者10名、左より
高井 忠(大E13) 谷 昌宏(大IP9) 三谷正芳(大E9) 黒田好子(大E14)
小野 博(大E5) 廣瀬彰彦(大S10) 森本勝幸(大S15) 岡田尚三(大R14)
川井田修(大DM31) 奥田修司(大E52) 敬称略

愛媛支部

垣生千春(大IP40)

11月25日(日)、愛媛支部の総会と懇親会がJR松山駅にほど近い郷土料理の「なが坂」で開催されました。今回は参加者が少し増えて初めての方を含む10名の皆様にお集まり頂き、近況や懐かしい学生時代の思い出話に花を咲かせて、楽しい時間を過ごすことができました。



支部総会のご案内は、同窓会名簿と一部把握できていたメールアドレスの情報を元にお送りしたのですが、県外・海外への転居や連絡先不明の方が予想以上にいらっしゃいました。郵送でのご案内では連絡が行き渡りにくい事が分かりましたので、より多くの皆様にお伝えするため2019年度愛媛支部総会のご案内は個別には行わず、本誌『咲耶』を正式のご案内とする方法を試してみるようになりました。今年は11月24日(日)12:00～、場所は前回と同じ「なが坂」で行います。これまで支部総会の情報がうまく伝わっていなかった方、総会の時期に愛媛に帰省されるご予約の方、初参加の方も大歓迎です。

皆様にお会いできる事を楽しみに、ご連絡をお待ちしております。

最後になりましたが、今年から正式に愛媛支部の支部長と事務を兼務させて頂くことになりました垣生と申します。これまで支部総会にはたまに出席する程度でしたので行き届かない事も多いと思いますが、これからよろしく願いいたします。

■令和元年度 愛媛支部総会のご案内

日 時 11月24日(日)12:00～
場 所 松山市宮田町5-1「なが坂」JR松山駅から徒歩3分
会 費 2,000円(税別、飲み物代別)
連 絡 先 垣生・支部長 TEL/SMS: 090-8286-8341
申込〆切 10月末日

徳島支部

小田敏治(大IN21)

大阪大学徳島支部同窓会が2019年1月29日に開催されペルシア語S45年卒業の小松格氏が講演をされ現状の中東における歴史背景を説明され出席者からは面白い興味深い題材だとの評価を頂きました。今年は 2019年10月27日に開催予定となっております。支部各位におかれましては多忙とは思いますが咲耶会、大阪大学同窓会の開催をご案内いたしますので、是非ご参加ください。

北京支部

砂 賢作(大C54)

大家好(皆さんこんにちは)！
咲耶会北京支部では四半期に一度を目途に集まり、駐在員・現役学生の親交と一体感を深める良い機会となっております。北京には中国に進出する日系企業のヘッドクォーターが多いこともあり多くの駐在員が在籍、また北京大学・清華大学・北京語言大学等の留学先もあり毎年多くの現役学生が留学に来ており当地の咲耶会は毎回20名前後の幅広い年齢層の参加者で盛り上がっております。



当地の咲耶会は、中国語専攻の卒業生・現役学生が多いことから中国語科の先生の話で盛り上がったり、古株のOB・OGの方の仕事のエピソードを現役学生に紹介したりといった内容で非常に有意義な機会となっております。多くの参加者からは、このような「縦のつながり」は他では得られる機会が少なく今後も大切にしていきたい、というコメントを頂いております。また、東京外大と合同での懇親ゴルフコンペも定期的実施しており、大学間の「横のつながり」も大切にしております。

サンパウロ支部

平野 茂(大S20)

私事で大変恐縮ですが、私は44年間ブラジルに滞在したあと、今年10月頃日本へ本帰国する決意をしました。1972年大阪外大イスパニア語科を卒業後、入社した名古屋の紡績会社から1975年7月にブラジルへ出向して駐在歴23年、1998年に帰国して退職しブラジルへ戻って自営を始めてから21年、振り返れば昭和と平成の長い年月をブラジルで過ごしたものと感慨深い想いがします。

1960年前後に始まった日本企業のブラジル進出ブームは70年代さらに加速、しかし80年代後半から90年代にかけブラジル経済の停滞で企業進出の気運は一旦遠のいたものの、2000年代にはBRICSの一角国として世界から注目を集め再び進出ブームに火が付きました。一方では、時を同じくして世界経済のグローバル化に見舞われ、業界によっては存続の危機に直面し、2010年代には撤退を余儀なくされる進出企業も相次ぎました。「未来の大国」と言われ続けてきたブラジルは、2008年のリーマンショックを契機に資源豊かな近未来の経済大国として変身するかのように見えてきましたが、結局政治の混乱が続いて大きな飛躍には結びつかないままとなっています。

しかしながら、極めて親切で人懐っこいブラジル人の国民性に加え、人種差別も無く、さらには地震や台風などの自然災害とも縁が薄い温暖な気候は、社会治安が悪いというマイナス材料を差し引いても日本人にとって住みやすい外国の一つです。笠戸丸以来110年となるブラジル移民の長い歴史もそうした環境に支えられてきたのでしょう。そんなブラジルを去るには後ろ髪を引かれる想いですが、私も今年とうとう70歳の古稀を迎え、祖国日本への帰郷を決意した次第です。

咲耶会サンパウロ支部の会員は現在も10数名ならずと少ない状態が続いていますが、支部長を平成12年ポルトガル語科卒の若い草薙綾子さんに託し、サンパウロ支部の益々の発展をお祈りいたします。

近鉄奈良駅徒歩1分
HOTEL花小路
上田トクエ(大E15)
〒630-8226 奈良市小西町23番地
TEL: 0742-26-2646 FAX: 0742-26-2647
H.P. <http://hanakomichi.co.jp>
E-mail yoyaku@hanakomichi.co.jp

(季節を愉しむレストラン 個室)

古典芸能案内人 **IE17**
文楽、落語、歌舞伎の面白さを伝えます。
天野光(本名・天野豊子)
AMANO HIKARU
文楽、落語、歌舞伎のセミナー依頼受付中。古典芸能案内人で検索!!!
アメブロ: <https://ameblo.jp/koten-geinou-guide/> 早期退職者の知的生活: <http://artcoordinator.com/>
e-mail: kotengeinou@nike.eonet.ne.jp フェイスブック: [amanohikaru.2](https://www.facebook.com/amanohikaru.2)

マニラ支部

バチリヤ(橋元)紀美加(大PH49)

2001年に卒業しフィリピンでの生活を始めてから今年で18年になります。フィリピン人男性と結婚し一児の母となりましたが、いつの時も咲耶会で仲良くさせていただいている方々、そして咲耶会での楽しいお話が心の支えとなってきました。また、現在育児中の女性会員が私を含め3名おり、育児について悩みを話したり情報を交換できるのはとても心強いものです。



3、4か月に1回開催される咲耶会では80代から20代まで様々な年代の方が集まり、これまで赴任された国で経験されたことやフィリピン人・フィリピン文化について、日々の生活での経験など「外大生ならではの視点」からのお話で大いに盛り上がりです。皆さんフィリピンで様々な経験をされながらもフィリピンに愛着を持って生活されていることが伺えます。昨年9月以降男性メンバー4名をお迎えして、男女約半々となりました。今年に入ってからは大阪大学同窓会待兼会との合同懇親会も約2か月に1回開催されており、大阪大学・大阪外国語大学の統合後、同窓会の交流も盛んになってきました。

「集まれる人達だけでもちょこちょこ集まりたいですね」と話をしているところで、本当に居心地の良い支部です。

香港支部

小林敏子(東アジア大C57)

重鎮の帰任

今年で5回目となった外大の旅行には重大な意義がありました。それは香港在住7年で、みんなのお父さん役として、咲耶会香港支部の副会長も務めていただいた佐藤さん(フランス語卒)が帰任となり、最後の参加となりました。

今までの旅行では、観光内容を重視したものだったが、今回はのんびり過ごすという意味で、「中国のハワイ」と呼ばれている海南島に行ってきました。

女性4名と佐藤さん男性1名というハーレム状態となり、天気にも恵まれた3日間でした。空港に着いた途端、明らかに中国と違う雰囲気が漂っており、別世界に来たような感覚でした。



いつもと同じように、チャーターした車で早速ランチへ。ボリュームと味に驚かされ、ハワイに似すぎる街並みにも驚かされながら、ネットで話題の熱帯雨林テーマパークへ。頂上からは、中国最南端の領土の“海角”がキレイな海に囲まれているのが見え、清々しい気分になりました。10年前に来た時、この海は黄河のように黄色かった記憶がよみがえりました。ホテルは少し奮発をして、全員が一緒に泊まれる2ベッドルームのプール付きヴィラにしました。さすが中国のハワイというだけあって、施設も雰囲気も南国そのもの！唯一、ここでもやはり中国語しか通じないのが難点。(笑)

海南島はまた、少数民族が多数居住しているので有名で、2日目は少数民族村で観光しながらちょっぴり外大生らしい勉強もしてきました。そこで半日過ごした後、ハワイよりもワンランク上の、「中国のモルディブ」と呼ばれている島に行ってきました。ワクワクして行ってみると、まさにモルディブ！でした。ここで泳ぐもよし、ビーチ沿いのバーで飲むのもよし、楽しみ方は人それぞれ。こうしてのんびりと南国リゾートで過ごした2日間、やはりマッサージは欠かせないということで、ホテルの近くにあったタイマッサージ屋さんに行くと、とんでもなく高い料金だったので、仕方なくホテルに帰って自分たちでマッサージをしました。(笑)

最終日は三亚から北上して、省都であり商業の街として栄えてた海口から香港に戻ることにしました。民国時代の街並みがまだ残るこの街では、タイムスリップしたかのようでした。

海南省、ここはどこを見ても中国の雰囲気が一切ない、少し特殊な街でした。

バンコク支部

阪本法子(開発・環境大47)

咲耶会バンコク支部は、1960年の設立以来、2019年で59年目を迎えました。現在も、数ヶ月に一度、東京外大や関西七大学とのゴルフコンペ、交流会などを開催しています。今年度は、新しい試みとして、交流会の際に、在タイ咲耶会会員に、在タイ日系企業による中国企業との接し方やタイでの出家経験についての講演をしていただき、有意義な時間をすごしました。



数十年続く東京外国語大学との合同同窓会は、2018年度は久しぶりに、チャオプラヤ川のクルーズ船上で開催しました。昨今は組織や社会の発展には「ダイバーシティ」が不可欠であると言われていたことから、当会でも、外国語大学や外国語学部限定せず、「タイ」つながりで、タイに留学している日本

各地の大学からの留学生の皆さんや多くの企業の方々にも多数ご参加いただきました。大いに刺激になる会となりました。

また、大阪大学全体同窓会にも協力し、様々な学部出身の方々との交流を通じ、視野を広げる良い機会となっています。

これからも、新しい風を吹き込むことで、咲耶会バンコク支部を益々発展させていきたいと思えます。ご興味のある方はどなたでも、お気軽に osakagaidaibkk@yahoo.co.jp にご連絡ください。

ハノイ支部

中本修一(開発・環境大48)



咲耶会ハノイ支部は、東京外大と合同開催の「ハノイ外語会」をベースに年3〜4回程度集まっております。「ハノイ外語会」は30年近く続いている当地最古の大学同窓会組織であり、登録ベースで約70名、会員は卒業生のみならず、現役学生・ベトナム人が多いのが特徴です。毎回ハノイ市内のレストランで食事をしながら、近況報告やベトナム情勢について意見交換を行っております。また2019年度については阪大の同窓会組織である「いちよう会」と初の合同同窓会を開催しました。今後についてもベトナム南部の「ホーチミン外語会」や「いちよう会」との連携を通じ、更なる活動の幅を拡げて参ります。当地に赴任、留学される際には、是非ハノイ支部の活動にご参加ください。お待ちしております。

北米同窓会

北米同窓会 日本支部担当理事 久保井亮一

2019年 7/4 GetTogether (阪大北米の会) 報告



7月4日の米国独立記念日、そして今年はUC/UCEAP大阪オフィス発足5周年もお祝いする、OU-UC Get Together(阪大北米の会)は、阪大日米学生会・北米同窓会日本支部主催、UC/UCEAP大阪オフィス共催で、国際部・国際教育交流センター・咲耶会・日蘭学生会議等に後援、そして本学有志教職員の方々からの暖かい経済的支援をいただき、箕面キャンパスでの夏季日本語プログラムJ-ShIPや吹田・豊中キャンパスでのサ

マーフロンティア等に参加している UC留学生たち(と日本人バディたち)、そして日米学生会やUCデータベースなど北米夏季研修にこれから参加する各学部生や院生たち、さらには本パーティを、側面から経済的に支援してくださった有志教職員も交え、総勢約150名が参加して、大会会館アセンブリーホールで賑やかに開催されました。

日米両サイドから竹村先生・Wang先生らの歓迎・答礼の挨拶、寄付支援いただいた国際関係の先生方・皆さまの紹介、OU-UCを繋ぎUC大阪オフィス主催の講義を当初より担当いただいているイノ先生の乾杯の挨拶の後は、学生たちの趣向を凝らした各種イベントもあり、学生ダンスサークルや大人気のマスコット・ワニ博士も参加して大いに盛り上がりましたが、OU、UCの学生たちによる締め挨拶、記念撮影の後、バスの時刻が過ぎててもなお懇談を楽しむ学生たちの名残を残して、記念の阪大北米の会は盛会裏に無事終了いたしました。

阪大日米学生会や実行委員会役員・日米のボランティア学生の皆さんたちの見事なチームワークと大活躍のお蔭で、本来の狙いでもあった日米の素晴らしい出会いが沢山生まれた、とても気持ちのよい歓迎交流パーティとなりました。

■■■■■ 支部総会・イベントのご案内 ■■■■■

- 令和元年 東北支部総会
 - 日時/11月16日(土)午後3時から
 - 場所/仙台市内で開催する。
- 令和元年 名古屋支部総会(忘年親睦会)
 - 日時/12月14日(土)12:00~14:30
 - 会場/アパホテル名古屋錦11F ビルゴ
 - 会費/4,000円(和食弁当と飲み物)
 - 講演会/講師:木越 勉氏(大S26/イスパニア語学科1978年卒業)
 - 演題/「私のスペイン語とのかかわり」
 - プロフィール: 外大卒業後、三井物産入社。商社マンから学究の徒に転身。2008年中京大学に勤務。現在、中京大学国際教養学部教授。名古屋市在住。
 - 申込先/名古屋支部幹事 白岩 修 TEL& FAX: 052-806-7873
 - 携帯: 090-4865-8172 メール: shiraiwa1123@yahoo.co.jp
 - 申込締切: 11月20日
- 令和元年 岐阜支部総会
 - 昨年度はロシア語4回生玉木功一先輩の「渤海遺跡探訪の旅」と題する卓話を拝聴し、大変好評を頂きました。今年はスペイン語27回生尾形裕幸氏に卓話を依頼しました。どんな面白い話が聴けるか楽しみにして下さい。
 - 日時/11月10日(日)
 - 場所/JR岐阜駅横 じゅうろくプラザ内「ラ・ローゼ プロバンス」
 - 電話/058-262-0156 会費/2,500円 開始時間/12時00分
- 京都支部総会
 - 日時/令和元年10月18日(金)16:00~
 - 会場/京都ガーデンホテル「彩宴」
 - 講演/(演題)「ひとり親家庭の子どもを支える学習支援」
 - (講師)渡 剛(わたり つよし) 大阪大学外国語学部・日本語第一回卒業生懇親会/講演会終了後
 - 出欠のお返事は8月発送済みのハガキにて9月30日(月)までお願いします。
- 令和元年度 愛媛支部総会
 - 日時/11月24日(日)12:00~
 - 場所/松山市宮田町5-1「なが坂」JR松山駅から徒歩3分
 - 会費/2,000円(税別、飲み物代別)
 - 連絡先/垣生・支部長 TEL/SMS: 090-8286-8341 申込×切/10月末日
- 2019年度 鳥取支部(兼島根支部) 総会 兼 第2回 合同同窓会
 - 日時/11月16日(土)18時~20時
 - 場所/ANAクラウンプラザホテル米子(旧米子全日空ホテル)
 - 〒683-0824 鳥取県米子市久米町53番2号 TEL 0859(36)1111
 - 連絡先/山西敏博(鳥取支部長) 080-3237-0225 ezm11541@nifty.ne.jp

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

年会費のお支払い、賛助金のご寄付ありがとうございました。 ※ は年会費と賛助金の両方を納入いただいた方です。ご協力ありがとうございました。

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大E5 馬場弘行, 大E6 田代圭治, 大E6 田淵弘通, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大E21 中島(森岡)由紀子, 大E22 藤岡(上田)和代, 大E22 藤吉(秀島)知恵子, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大S10 東谷頼人, 大S10 広瀬彰彦, 大S10 谷尾毅司, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大S37 明吉(高野)里子, 大S39 岩田美代子, 大S39 高崎芳成, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 大R40 片岡 泉, 大R40 堀内(齊内)明子, 大R43 三島(小園)桃子, etc.

Table with 2 columns: Member ID and Name. Includes members like 短E1 林 昌也, 短E2 堀内(桜島)佳久, 短E2 藪内(磯唯), etc.

咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表

本部	会長	連絡先	E-mail or TEL/FAX
	大水 勇(大C15)	事務局 〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 大阪大学外国語学部内	TEL&FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支 部	支部長名		
北海道	笹山喜市(大IP25)	喜多義憲(大M20)	〒062-0901 札幌市豊平区豊平一条3-1-33-1003 yokok@22351@gmail.com
東 北	黒木一吉(II E10)		kukoki@o-bb.net
		中村勝彦(大M34)	〒440-0893 豊橋市札木町69-302 nakamura.shokado11@gmail.com
東 京	久保義昭(大S14)	樽井一仁(大R23)	〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603 taru2742@yahoo.co.jp
静 岡	下石京子(日本語大45)		loverswalk1975@hotmail.com
長 野	山西敏博(院後言社8)		〒386-0034 長野県上田市中之条371-7-202 ezm11541@nifty.ne.jp
名古屋	塚崎義弘(大R8)	白岩 修(大D19)	〒465-0066 名古屋市名東区梅森坂西1-801-107 shiraiwa1123@yahoo.co.jp
岐 阜		丹羽宏造(大IN7)	〒508-0101 岐阜県中津川市苗木4827-48 k.niwa@ena-gf.jp
石 川	楠根重和(院D7)	吉田孝子(大IT37)	〒921-8171 金沢市富樫1-10-4-601 taka5yomako@gmail.com
福 井	山下裕己(大S23)	森 茂(大E4)	〒910-0002 福井市町屋3-25-23 irom@biscuit.ocn.ne.jp
京 都	宮川督三(大S16)	西尾 齊(大E11)	〒606-8404 京都市左京区浄土寺下南田町70 dkals108@kyoto.zaq.ne.jp
奈 良	神谷忠雄(大E4)		〒630-8424 奈良市古市町31-32 mahoroba-nara-kamitani@iris.conet.ne.jp
大 阪	金村義夫(II E10)		〒540-0012 大阪市中央区谷町1丁目7番3号 天満橋千代田ビル ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神 戸	大森久美子(大DM36)		〒662-0835 西宮市平木町3-21 ルモンド西宮229号 kkmom93@yahoo.co.jp
播 但	釜谷研造(大E2)		〒675-0038 加古川市加古川町木村140-8 FAX (079)424-7777
丹 波	岸田 功(大IN15)		〒669-3309 丹波市柏原町柏原47 rskq59484@zeus.eonet.ne.jp
香 川	大西 晏(R25)	小野 博(大E5)	〒760-0004 高松市西宝町2-3-14 TEL&FAX (087)862-0836
徳 島		小田敏治(大IN21)	〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34 tom_oda@emn.ne.jp
愛 媛	垣生千春(大IP40)		〒799-2460 愛媛県松山市菟木甲119-8 hazar-baharjulai-25@ezweb.ne.jp
高 知		周藤健史(大S30)	〒780-0024 高知市前里335-7 tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡 山	草野 徹(大DM23)		〒701-1221 岡山市北区芳賀5112-98 akirakusano0319@i.softbank.jp
広 島		山岡 哲(大IT20)	〒733-0814 広島市西区己斐西町19-37 yamaoka@tosco.co.jp
鳥 取	山西敏博(院後言社8)		〒386-0034 長野県上田市中之条371-7-202 ezm11541@nifty.ne.jp
福 岡	吾郷健二(大S10)	中尾史子(大IN27)	〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501 hirako@lisa.co.jp
熊 本	かじえいせい(大S21)		〒861-2405 熊本県阿蘇郡西原村出の口1547-1 dreamincountry@gmail.com
宮 崎	近藤哲二(II S10)		〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄1720-2 tkondo@yahoo.co.jp
沖 縄	金城徹男(II D5)	鈴木正士(大S36)	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 琉球大学法文学部国際言語文化学科 msuzuki@ll.u-ryukyuu.ac.jp
北 京	中嶋清治(大C21)	砂 賢作(大C54)	(送付物宛先) 100044 中国北京市朝陽区東三環五号 発展大厦218室 豊田通商(天津)有限公司 大連分公司 天津金属部 大連金属G suna_kensaku@bj.toyotsu-ea.com
上 海	渡邊 洋(大C29)	伏村和展(大C59)	sh_oufs@yahoo.co.jp
香 港	太田明雄(大IT26)	小林敏子 (東アジア大C57)	Flat 9B, Chuen Fat Building, 9 Valley Road, Ho Man Tin, Kowloon, Hong Kong 4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一(大K35)		Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OneIFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	内原正司(大IN12)		Jl. Panglima Polim V No.14 A Kelurahan Melawai Kecamatan Kebayoran Baru, Jakarta Selatan, Republic of Indonesia masashi.uchihara@sgl.co.id
マニラ	テンマタイ柴垣都喜代 (大E25)		# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720 tsukiyotenmatay@gmail.com
バンコク	川村芳範(大TV24)		kawamura-yoshinori@earth-chem.co.jp
		阪本法子 (開発・環境大47)	Ms. Noriko Sakamoto #2007 Cape House Serviced Apartments, 43 Soi Langsuan, Ploenchit, Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand osakagaidaikbkk@yahoo.co.jp
ハノイ外語会	中本修一 (開発・環境大48)		shuichi.nakamoto@mizuho-cb.com
ヤンゴン外語会	松島勇治(大B27)		centro318@gmail.com
ニューヨーク		石田佳子(大D29)	230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA hime.yoshikoishida@gmail.com
ロサンゼルス	望月一郎(大E25)		951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA ichimochizuki@yahoo.co.jp
		西川ノーマン裕子 (大TV36)	4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA hirokonamann@gmail.com
サンパウロ	草薙綾子 (中南米大PB48)		Alameda Santos, 705-cj. 17-Cesar Sao Paulo-SP- Brasil-01419-902 wec@wecbrazil.com
ロンドン			
デュッセルドルフ	片岡 惇(大S4)	小玉亜衣(大D52)	Grenzstr. 33 40670 Meerbusch Germany sakuyakai_dus@yahoo.co.jp
パリ	松本隆男(大F4)		c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delaborde 92200 Neuilly / Seine France matsumototakao@netntt.fr
ミラノ			
モスクワ	岩本 茂(大R18)		c/o JAPAN TOOL SERVICE 119049 Ul.Korovij Val dom7, kv168 Moscow iwamoto@tools.biz kingkong4152@aol.com
シドニー外語会		河原一夫(大DM40)	45 Moree Street Gordon, 2072 NSW Australian kawahara345@oki.com



株式会社 サラト

TEL 0120-953-070
受付時間 月～金 9:30～12:00 / 13:00～17:00

同窓会幹事代行承ります。

※(株)サラトは同窓会の名簿管理会社です。



令和元年度 咲耶会役員名簿

役 職	氏 名	所属	役 職	氏 名	所属	役 職	氏 名	所属
名誉会長	大内 一	院 S13	幹 事	三次召尚	II C5	幹 事	大辺理恵	院前中北欧7
会長	大水 勇	大 C15	〃	西村朋也	大 TV22	〃	山瀬靖弘	大 SH56
副会長	宮崎衛夫	大 IN13	〃	石野伸子	大 D22	〃	福山泰海	大 H59
〃	井上泰子	大 E15	〃	福富奈津子	大 C24	〃	後藤 峻	南欧夜 F42
〃	小林正受	大 E16	〃	青野繁治	院 C12	大 学 役 員	岸田文隆	院 K15
〃	樽井一仁	大 R23	〃	笹原敬生	大 IN27	〃	竹村景子	院 A22
幹 事	西尾 齊	大 E11	〃	河井洋子	大 R27	会 計 監 査 役	荒木和夫	大 DM18
〃	藤本和貴夫	大 R12	〃	村上忠良	大 TV36	〃	岡本晶子	大 S29
〃	前田征信	大 K16	〃	大森久美子	大 DM36	相 談 役	磯田良一	大 IN3
〃	深川泰博	大 E16	〃	上原順一	院 R22	〃	少徳敬雄	大 E11
〃	白岩 修	大 D19	〃	松本健二	院 S24			

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子 / 委員 上原順一・松本健二 / 事務局 天野豊子・西田貞子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。


- 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。
 - 会員のデータ管理
 - 総会・同窓会活動各種案内
 - 会報『咲耶』の送付
 - 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
 - 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
 - その他会則に基づく活動
- 自己情報の提供は任意です。
- 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。
- 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。
- 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

編集後記

『咲耶』30号をお届けします。
平成3年6月に新装『咲耶』第1号が発刊され、令和の時を迎えた今年、30号を数えることになった。この間、母校は大阪大学との統合という大きな歴史的転換点を乗り越え、2年後には、創立100周年を迎えようとしている。新学舎への移転も目前である。
『咲耶』と言う名は、もともと「大阪外国語学校」設立時の校友会誌の名前であった。「咲耶会」という名称が使われるようになったのは、昭和56年の創立60周年の際に同窓会の愛称を公募したことに始まる。

同窓会機関誌としては、昭和36年に広島支部が創刊した『扉』が昭和55年の64号までつづき、本部の機関誌に代わるものとして、全国同窓の友好に寄与したとされる。その後、『本部通信』を経て、昭和58年に有料会員制で発刊されたのが旧の『咲耶』である。志とは別に、平成2年の第16号で休刊となった。
大学の発展とともに卒業生が2万人を超え、全卒業生を対象に無料配布という理想のもと再生した『咲耶』が、今休刊の危機にさらされている。同窓会の深刻な財政難のためである。この危機を救うため、皆様の母校愛とご支援におすがりする次第である。

(編集委員会)



会報 No.30 (2019)

発行 令和元年9月

発行者 咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)



〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 大阪大学外国語学部内 E棟 1F

TEL & FAX: 072(728)2327 E-mail: sakuyakai@sfs.osaka-u.ac.jp

ホームページ: sakuyakai.net

フェイスブックページ: www.facebook.com/SAKUYAKAI

郵便払込口座番号: 00910-7-21536 加入者名: 咲耶会

咲耶会 メールアドレスおよび
連絡先 QR コード

咲耶会 facebook
QR コード